

# 層富

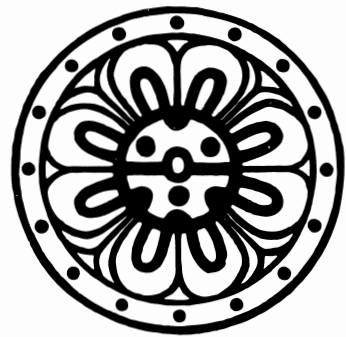
(川口勇書)

## 会誌名「層富」(そほ・そふ)の由来

私たちが住んでいる平城ニュータウンの地域は、古代には「層富」または「曾布」「添」とも記され、「倭六県」(やまとのりくのあがた)の一つでありました。出典は『日本書紀』の神武即位前紀己未年の春2月壬辰朔辛亥(20日)の条に見える「層富県」によりました。

題字もはじめ小さく、あと大きくしましたのは皆様の将来と本会の末広の発展を願ったものです。

古代大和の由緒ある地名を理事会の賛同を得て会誌名としました。ご愛顧の程を。(網干善教)



## 会章

平城ニュータウンの「平」と文化協会の「文」を上下に組み合わせ、単純な円形にまとめ、音如ヶ谷瓦窯跡から出土の古代軒丸瓦の中央部分に配置したものです。蓮華の中の埴輪の顔のようにも、二人三脚で楽しんでいるようにも見えます。

(基本デザイン 笥 裕)

(構成デザイン 梶野 哲)

# 第二十五号「層富」目次

「表紙」について	パッチワーク研究会講師 打田 照子	1
「層富」と「会章」の説明		2
「目次」		3
「巻頭言」	第二代会長 上田 義次	4
「中国の都市は、どう変わったのか」	奈良大学学長 石原 潤	5
「《論語》心得」(「論語」に学ぶ)	中国語同好会 松村 如洋訳	10
「俳句」		21
「短歌」		25
「グループからの便り」		30
「第二十五回(平成十九年)文化祭」		53
「観月宴」と「初代会長網干善教先生を偲ぶ会」		57
「広田さんを偲ぶ言葉」		58
「第二十六回(二〇〇八年度)総会報告」		64
「会則」		71
「講座・同好会(二〇〇八年度)一覧表」		74
「編集後記」		75

## 【巻頭言】

会長 上田善次

層富発刊二十五回目にあたり、当協会も新しい体制でスタートを切る事となりました。自治会の皆様の働きかけによって創立された本協会も二十有余年の歳月の間に幾多の変遷を重ねながら故網干善教会長のもと、本来の目的達成に努力を重ねて参りました。

年号が平成に変わり、日本の社会道徳は言葉に言いつくせない程の変わり様であります。グローバル化されつつある世界情勢の波は私達地域社会にも変化をもたらしつつあります。

こんな時勢だからこそ自治体の方々と手を組み、文化活動の面から地域社会のお役に立つ運営を計ってゆかねばと思う所があります。会の皆様方のたゆまぬ文化活動と、建設的な御意見により、協会の存在価値を一層高めてゆこうと思っておりますので、ご協力の程お願い致します。

# 「中国の都市はどう変わったのか」

奈良大学学長 石原 潤



## 問題意識

新聞やテレビで報道されるように、経済成長の著しい中国で、特に都市の発展が顕著である。その様子は、西側資本主義諸国と変わりがなくように見える。しかし中国は「社会主義国家」であるはずである。いったい、中国では都市の「しくみ」はどうなっているのか。また、それは革命後の計画経済の時代と、改革開放政策以後ではどのように変化し、現在ではどのような問題を抱えているか。これらのことを検討してみたい。

革命後の中国の歴史は、その前半を計画経済期、後半を改革開放期と、二分することが出来る。両時期ともそれぞれ約三十年間である。

## 計画経済期（一九四九年～一九七八年）の中国都市

社会主義社会を目指す新中国政府は、都市の経済を支える工業、商業の両部門を、原則的に国有化した。また、農村の土地は村毎に農民の共有とされたのに対し、都市部の土地は国有とされた。土地の利用権は、国家より「工作单位」（事業単位のこと。国有の工業・商業企業、お役所、学校、病院等）に無償で分与された。したがって、土地所有権や利用権の売買は存在せず、土地に市場価格も存在しない状態であった。

当時、都市住民の住宅のほとんど全ては、中層（三五階程度）のアパートで、単位の仕事場に隣接して建てられており、「職住近接」が実現していた。人々の生活は、大単位の場合を典型として、それぞれの「単位空間」の中ではほぼ完結していたと言える。すなわち、第一



図の「西北師範大学」や「蘭州化学工業公司」の場合のように、大単位の場合、職場に近接したアパート群の中に、保育所・小学校・商店・診療所・サービス施設などが完備されていたからである。中国では、夫婦は共稼ぎであるが、計画経済期には政府が就職先を統一的に配分していたので、一般に夫婦は同一の単位内に職を得ていた。昼休みは二時間あり、したがって、家族は夫婦・子供共に自宅へ帰って昼食をとり、昼寝もして、リフレッシュして午後の勤務や学習に向かうという、「人間的」な生活が営まれていた。アパートは単位が提供するもので家賃は安く、単位はまた医療をも保障し、さらに退職後も給料に近い年金を支給し、死ぬまでアパートに住み続けることを保障していた。まさしく「ゆりかごから墓場まで」の社会保障が、単位によって実現していたと言える。当時の中国都市は、第二図の蘭州市に見るように、大中小のさまざまな単位のモザイクとして構成されていたと言える。

当時、厳格な戸籍（戸口）制度により、農村から都市への移住は強く制限されており、農村戸籍から都市戸籍への転換は、大学への進学や国有企業への就職時以外は

不可能であった。この結果、大都市のいたずらな膨張は抑制されており、中国では、他の発展途上国で見られたような、大都市でのスラムや不法占拠住宅（スコッター）の拡大と言った現象は見られなかった。

### 改革開放期（一九七九年以降）の中国都市

一九七八年末の中国共産党の会議で「改革開放」の方針が宣言され、その方向での諸改革が一九七九年から順次、実行に移された。これによって中国の経済や社会はドラスチックな変化を経験するが、都市の場合も例外ではなかった。

「改革」の一環として、まず国有企業改革が実行され、工業については経営の自由化、商業については大部分を民営化するという処置が採られた。また国有企業その他に、さまざまなタイプの企業が存在が容認されることとなり、郷鎮企業（農村主体の公有・私有企業）、外資系企業の参入が許され、後には株式会社制度まで導入された。国有「単位」による「ゆりかごから墓場まで」の社会保障は、国有企業の競争力を損なう重荷と見なされ、住宅、子女教育、医療、年金など「単位」が担って

きた諸機能は「社会化」（外部化）されることとなった。

土地利用権を無償で分与する方式を改め、国家が各種企業・個人に有償で貸与する（権利金や使用税を徴収する）方式が採用された。その際、権利金や使用税は、土地の立地点にしたがって異なった金額が設定された。また、土地利用権の売買、又貸し、抵当権の設定なども、順次可能になったので、事実上の土地市場が成立し、土地の市場価格が発生した。以後、都市内部の一等地を巡って激しい企業間競争が生じ、「地価」の高い地区では再開発や高層化が進展することとなった。投機的思惑も働き、「地価」は高騰を続けている。

やがて住宅の私有化政策が採られるようになり、一九九五年頃から「単位」のアパートの払い下げが始まり、急速に進行した。現在では企業は住宅の提供を必ずしも保証しないのが一般で、個人による住宅の賃借・購入の必要が生じており、「職住分離」が進行しつつある。これらを背景に、住宅市場の急速な拡大が見られ、都市縁辺部でデベロッパーによるマンション建設が極めて盛んである。また再開発や土地利用権の取得を巡っては、

紛争が多発しており、汚職の噂も絶えない。

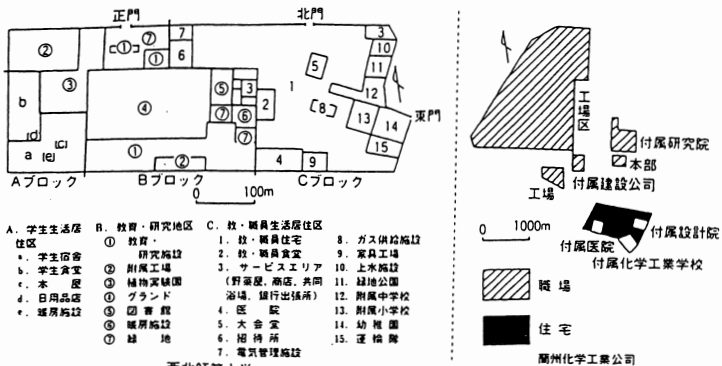
一方、沿海部や大都市における旺盛な労働力需要を背景に、戸籍制度は少しずつ緩みつつある。すなわち、長期的な出稼ぎ者には「暫定居住証」を与え、都市での合法的な居住を認めるようになっており、特定の職業の者には都市戸籍そのものを与える措置も行われている。したがって、一般に都市人口は年々急増している。

こうした中で、中国の大都市では、計画経済期に見られなかったような都市問題が、資本主義諸国の都市と同様に発生している。その一つは、都市内部の居住地の分化が顕著になりつつあることである。第三回の北京市に見るように、大都市郊外には、高級住宅地（一戸建ての「別荘」風住宅地区）が拡大しつつある一方、都市縁辺部には「貧民窟」（出稼ぎの底辺労働者の居住地区、スラム）が発生している。「貧民窟」と関連して、「城中村問題」（都市に組み込まれた農村の問題）も解決困難な問題である。都市近郊の村は、長年の裡に土地の多くを国によって徐々に収用され、残っている土地は少ない。しかし、農村の土地は農民の共有だから、残っているわずかの土地でも、それを企業（工場、市場、飲食店など）

に貸せば、大きな利益が村に入ってくる。これらの村では、こうした収入をふつう村の公共施設や村民の年金に使う。また、農民の屋敷地は比較的広く、事実上私有地に近い扱いがなされている。農民はここで貸間やアパート経営が可能で、その一部が「貧民窟」化している。「城中村」では、このように豊かな「村民」と出稼ぎの底辺労働者が並存する空間であり、また一般市街地に対し景観的にも制度的にも異質な空間にもなっている。

### 結論..

以上のように、中国の都市は、計画経済期の「社会主義都市」から、改革開放期の「(社会主義)市場経済都市」へと変貌した。近年の都市の急激な発展により、ここでは資本主義社会の都市問題と類似の問題が発生しているが、土地が国有または農民の共有であるため、異なった側面をも有している点にも留意する必要があるう。

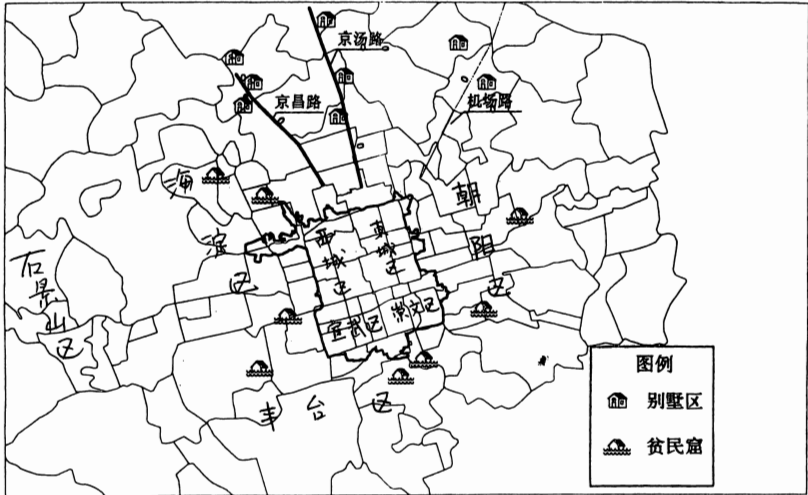


西北師範大学 第1図 「単位」の内部配置



第2図 蘭州市街地の主要「単位」

蘭州市統計局（1989）、蘭州市計画委員会（1988）、編写組（1986）により作成。



第3図 北京市のスラム（貧民窟）と別荘風住宅地（別墅区）の分布（1994年）

# 「《論語》心得」(「論語」に学ぶ)

于丹 著

中国語同好会 松村如洋 訳

「心灵之道(心の道)」其の一

それぞれ人の一生には意に合わないことや思い通りにならないことがよくあり、私達にはこれらの事を変える力がないのかもしれない。私達に変えられるのは、これらの事に取り組む態度である。

「論語」の真髄の一つは、いかに穏やかな心で生活の意に合わない事や苦難に対応するかを私達に教えている。二千五百年前の「論語」が本当に現代人の心のわだかまりを解くことが出来るのだろうか？

人生百年、落胆することもある。人はその一生の中で、いつもいろいろと思ひ通りならないことに出会うものだ。

孔子の弟子三千、七十二人の賢人、これら多くの教え子

もそれぞれが心に悩みを抱えていた。では彼らはどの様にして人生の意に合わないことに対応したのだろうか？

司馬牛、憂えて曰く、人皆兄弟あり、我独りなし。子夏が曰く、商これを聞く、死生、命あり、富貴天にあり。君子は恭しくして失なく、人と恭しくして礼あらば、四海の内は皆兄弟たり。君子何ぞ兄弟なきを思えんや。

「論語」(顔淵)

孔子の教え子、司馬牛はある時悲しそうに言った。他の人はみな兄弟がいるのに、私だけが(兄弟は皆亡くなつて)いない！

彼の学友子夏は彼を励まして言った。「商はこう言うことを聞いたことがある。生死は運命、富も尊さも天命であり、思い通りにいかない。君子は慎んで、過ちを犯

すことなく、人に対して恭しく礼を守れば、世界中の人は皆兄弟となる。君子は兄弟のないことをどうして悲しむことがあるか。

子夏は自分の名前を「商」と自称していた。彼の話はいくつかの文脈に分かれている。生死、富貴これらの事柄が共に運命に帰するものであるなら、自分では決めようがなく、左右するすべもない。そうならばこれを認めて順応することを会得しなければならぬ。

誠実で、礼儀正しい心を持ち、自らの言葉や行動に過ちを少なくし、相手を十分尊重し、謙虚で丁重に礼儀正しくすることは、修養を積み、自分自身の素養を高めることによつて成し得ることなのである。自身がきちんと出来れば、世の中の人は皆あなたを兄弟同様に愛し、敬うでしょう。だから立派に修養を積んだ君子となれば、兄弟がいなことを何で思い悩むことがあるか？

この言葉は孔子の口から出たものではないが、「論語」が提唱している価値観を代表している。人は先ず意に適わないことに正面から向き合い、早くこれを受け入れなければならぬ。何度も何故かと問い、心の中で問題を複雑にしてはいけない。それではあなたの苦痛はひどく

なるばかりである。

次に、態度としては、なるべく自分が出来ることでその思い通りにならない事を補つてゆかねばならない。

現実の生活の中で、足りない所を認め、自分の努力によつてそれらの不足を補う、それこそが「論語」が私達に教えている生活の意に適わないことに向き合う態度なのです。もし自身がこれらの思い通りにならない事を受け入れられなければどのような結果になるだろうか？

思い通りにならない事は、実際には大きく広がるものだ。その結果はどうか？それについて、インドの詩聖タゴールは、「太陽を取り逃がしたと泣いていたら、あなたは星も取り逃がすでしょう」と言っている。

生活の中で思い通りにならない事が避けられないものなら、どの様な気持ちでその事に対応するかが非常に大切になる。気持ちが異なれば、もしかしたら全く異なった生活となるだろう。

こんな寓話がある。ある小さな村にとても貧しい女の子がいた。その子は父親を失くし、母親と互いに寄り添いあって、手仕事をして暮らしを支えていた。女の子は自分を卑下し、それまで美しい服やアクセサリーを身に

つけたことがなかった。こんな非常に貧しい生活の中で育ち、十八歳になった。

その年のクリスマスに、母親は初めて女の子に二十ドルを渡し、そのお金で自分のクリスマスの贈り物を買わせた。

女の子は思わぬことに大喜びしたが、まだ大通りを堂々と歩いて行く勇気がなかった。そのお金を握って、人の群れを避け、壁に隠れて店の方に歩いて行つた。

途中彼女は人々の生活がみんな自分より良いのを見て、心では少しなさけない気がした。私はこの小さな村で一番身分の低い、惨めな女の子なのだ。自分が特にあげられている若者に出会い、彼女はまた切ない思いで、今夜の晴れやかな舞踏会で誰があの人のパートナーになるのだろうかと思つた。

こうして途中ややためらい、人の群れを避けながら店にやって来た。店に入ると、彼女は目に刺さるような痛みを覚え、カウンターに並んだ美しい緞子の花かんざし、髪飾りに目が釘づけになった。

丁度、その場に茫然と立ち尽くしていると、店員が彼女に声をかけた。お嬢さん、あなたの亜麻色の髪はとつ

ても綺麗ですね！薄い緑色の花かんざしをあしらつたら、すごく綺麗になりますよ。彼女は値札に十六ドルと書いてあるのを見て、高くて買えませんと、手にとつて見ようともしなかった。その時、店員はもう花飾りを彼女の頭に挿していた。

店員は鏡を手にして、彼女自身の姿を鏡に写して見せた。その娘は鏡の中の自分を見て、驚き茫然としてしまった。これまで自分のこの様な姿を見たことがなく、この一輪の花が自分を天使のように輝く美しさに変えたのだと思つた。

彼女はもうためらうことなく、お金を取り出し、その花飾りを買つた。心はうっとりとして、とても感激して、店員が出したお釣りの四ドルを受け取るとすぐ、身を翻して外へ飛び出した。そして、丁度店に入つて来た老紳士の体につかつた。その老人が彼女を呼ぶ声を聞いたように思ったが、もうそんな事に構つておられず、ひたすら飛ぶように走つて行つた。

彼女はいつの間にか村の真ん中の大通りまで駆けてきた。彼女は皆が自分に驚きの眼差しを投げかけているのに気付いた。この村にこんなに美しい娘が居たなんて知

らなかった。何処の家の子だ？皆が話し合っているのを聞いた。彼女は再び、自分がそれとなく好きだった男の子に出会った。その男の子は思いがけず彼女を呼び止め、今晚あなたをお招きして、私のクリスマスダンス舞踏会のパートナーになって頂きたいのですと言った。

女の子は心の中にまるで花が咲いたように、嬉しくてたまらなかった。彼女は思い切つて一度贅沢をしようと、残った四ドルでもう一度自分のために何か買ひにもどろうと思つた。そして、再び急いで店に戻つた。

店に入るとすぐあの老紳士が微笑みながら彼女に言つた。お嬢さん、私はあなたが戻つてくると分つていましたよ。あなたがさつき私にぶつかつた時、この花飾りが落ちたのです。私はあなたが取りにくるのをずっと待つていたのです。

物語はこれで終わりです。本当に、一輪の花飾りがこの女の子の一生の意に適わない事を補つたのでしょうか？実際には、意に適わない事を補つたのは彼女が取り戻した自信なのである。

人の自信はどこから生まれるものなのか？それはこころ静に心配することなく、泰然としてるところから生

まれるのです。

子曰く、君子の道なる者三つ。我よくすること無し。仁者は憂えず、知者は惑わず、勇者は懼れず。子貢が曰く、夫子自ら言うなり。(論語、憲問)

孔子は言われた、「仁の人は心配せず、智の人は惑わず、勇の人は恐れない。」(論語、憲問)心を強く、広くすれば一生の内の多くの思い通りにならない事をなくすることが出来る。

心を強く広くしたい、その前提は取るに足らない物の損得を軽視すること。損得にこだわりすぎる人は孔子に「俗人」と咎められる。

俗人、意味は徳の低い人で、公に立てない見識の狭い人のことである。

子曰く、鄙夫はともに君につかうべけんや。其の未だこれを得ざれば、これを得んことを憂え、既にこれを得れば、これを失はんことを患う。いやしくもこれを失はんことを患うれば、至らざる所なし。(論語、陽貨)

孔子は前に言ったことがある、この様な見識の狭い人に国家の大事行わせることが出来るか？出来ない。そのような人は利益を得られなかつた時、得られないことに



不満を抱き、得られた後はさらに失うことを心配する。失うのが心配になると、手段を選ばず既得の利益を守ろうとする。このようなもっぱら自分の利益に心を奪われる者は大きな度量を持たず、泰然とした気持ちを持たず、真の勇氣を持つこともない。



西安・大雁塔前の公園で早朝風揚げを楽しむ人達  
07.10.30

## 「心灵之道（心の道）」 其の二

本当の勇氣とは何なのか？ 匹夫（学識や知恵もない人）の勇とどのような違いが有るのか？ 「論語」は勇氣をどの様に解釈しているのか？

ご存知のように、孔子には子路という弟子がおり、飾り気がなく、勇氣には特にこだわりを持っていた。

孔子はからかって言った、いつか私の大道（主張）をこの世で広められなくなったら、自ら大海に（他国に行つて）舟を浮かべようと思う。其の時、私に従えるのは子路だといった。

子路はこれを聞いて有頂天になった。孔子はさらに一言付け加えて言った、この様に言った訳は、子路という人間は他に取り得がないからだ。勇を好むのは子路の特徴であるが、彼の勇はまだ内面的な修養にやや欠けている。

ある日、子路は真面目に孔子に問うた、「君子（政治を行う者）は勇を尊びますか？」君子は勇氣を尊ぶべきかどうか？

孔子は子路に言った、「君子は正義を第一とする。君

子は勇気が有っても正義が無ければ乱を起こし、小人（下々の者）は勇気が有っても正義が無ければ盗みを働く。」（論語、陽貨）

意味は、君子が勇敢であることを尊ぶのは決して間違ではないが、この様な勇氣には抑制があり、前提があり、其の前提こそが「正義」なのだ。正義の文字を前面にした勇氣であれば、それこそ本當の勇氣である。そうでなければ、君子は勇をもつて社会に乱を起こし、小人は勇が有る為に泥棒に成り下がる。

泥棒は戸を破つて侵入し、財物を略奪し、人殺しさをする。泥棒には勇氣が無いと言えますか？こうゆう抑制の無い勇氣は人間社会における最大の害悪である。

ではこの「正義」、「道義」は何なのか？

それは心の中の抑制である。孔子は、「抑制することによって、失敗する人はいない」と言っている。（論語、里仁）人は心の内で多少抑制すれば行為での過ちを減らせるだろう。

仮に人が一日「三度自分の身を省みる」（論語、学而）事を本當に出来て、「才能のある人を見ては、同じようになろうと思ひ、つまらない人を見ては、自分の心に自

ら反省する」（論語、里仁）ことを出来れば、抑制できるようになる。自分の誤りを十分に反省し、勇氣を持つて誤りを正すことが出来れば、それが儒者の提唱する真の勇氣である。

後に、蘇軾は《留侯論》の中に、勇氣について述べており、そのような真の勇氣を「大勇（真の勇）」と呼んでいる。蘇軾が言っているのは、昔の豪傑は、必ず人並みはずれた礼節を備えていた。匹夫（学識、智恵のない人）は侮辱されると、剣を抜き立ち上がって、すすんで闘う、これは勇に値しない。世には真に勇敢な人がおり、突然の事にも驚かず、言われなき事に出会っても怒らない。租の人はきわめて大きく、志が極めて高い。

蘇軾によれば、真の勇者は「人並みはずれた礼節」を持ち、韓信のように侮辱に耐え、劉邦を助け千里の外で勝敗を決し、天下を平定する偉業を生し遂げる。普通の人のように一時の勇をひけらかし、一時の喜びをむさぼる事はしない。それは心の中に理性で抑制された自信と冷静さがあるためであり、広い度量と高く深遠な志を持つているからである。

「突然到来した事にも騒がず」、「言われなき事をされ

でも怒らず、これを行うのは難しい。私達は自ら修養を積んだ君子になろうと子、他の人に逆らつて怒らせないようにすることは出来る。しかし、他の人は訳も無くいつもあなたに逆らつて怒らせる、あなたは怒らないように出来ますか？

よく見かけるのはこんな状況です。

例えば、ある人が月曜日に理由も無く暴力に見舞われ、火曜日にはすぐ友達一人ひとりにこの事を繰り返して話し、水曜日になると、もう気が重くなって人と会うのも嫌になった。木曜日になると、家族にいちやもんをつけ、口喧嘩を始めた。

これは何を現しているのか？繰り返す言うたびに、もう一度叩かれているのと同じ事であり、事が起こつてしまつた後も、毎日殴られ続けている事を意味している。不幸に見舞われた時、一番よい方法は不幸を出来るだけ早くやり過ぐす事である。そうすればもつと多くの時間を空け、もつと価値あることを出来て、効率よく、もつと楽しく生きる事が出来る。

生活では思い通りにならない事、不合理な事が沢山あり、自分たちの力ではこれを変えるすべは無いが、自分

の気持ちや態度は変えられることをこの物語は私達に教えている。人の心にあるものが、その人に見えるものなのだ。

昔の随筆に苏轼と佛印が交際していた話が載っていた。苏轼は多芸多才の人、佛印は高僧、二人はよく座禅を組み、瞑想に耽っていた。佛印はおとなしく、いつも苏轼にばかにされていた。ある時、苏轼はうまい事をしつても喜び、家に帰るとすぐ嬉しそうに才女の妹に話した。

その日、二人はいつものように一緒に座禅を組んでいた。

苏轼はたずねた、君は私が見えるか？

佛印は答えた、私は君が仏様に見える。

苏轼は聞くと大笑いして、佛印に言った、君がそこに座っているのを私にどの様に見えているか知っているか？まさに牛糞そのものだよ。

この時も佛印は心では分つていても何も言い出せなかつた。

苏轼は家に帰ると、妹の前でこの事を自慢そうに話した。

苏の妹は冷ややかに笑って兄に言った、あなたはその程度の悟りで座禪を組んでいるのですか、座禪を組む人が一番大切に行っているのは何か知っていますか？心に人の本性を見る事、自分の心に有るものが目に見えるのです。佛印はあなたが仏様の様に見えると言った、それは彼の心に仏様が居られる事を言っているのです。あなたは佛印が牛糞に似ていると言った、自分の心に何が有るか考えなさい！

この話は私達一人ひとりに当てはまる。何故私達が同じようにこの世界に生きているのに、ある人は楽しくほのぼのと生活し、ある人は反対に一日中不平を言い、不満を抱くのか？彼らの生活は本当にそんなに大きな差が有るのだろうか？

実際は、目の前に酒が瓶に半分はいつている。悲観主義者はこんないい酒がどうして半分しか残っていないのだ！と言い、樂觀主義者はこんなよい酒がまだ瓶に半分残っていると言う。表現が異なるのは、心理状態が違うためである。

今日、この様に競争の激しい時代には、好ましい心理状態を保つことは歴史上のどの時代よりも更に大切であ

る。

孔子は、「君子は平穩にして驕らず、小人は驕りて平穩ならず」（論語、子路）と言った。君子は心理状態が穩やかで安定し、勇氣がある、そのため、静かで悠然としたものが内から外へ自然ににじみ出るのである。小人に見られるのはもっともらしく取り繕った、高慢で尊大な態度で、その人の心は短気で、大らかな度量が足りない。

以前、私は鈴木大拙の書で、一遍の物語を読んだ。主人公は江戸時代の有名な茶人で、羽振りのよい主人に仕えていた。ご存知の通り、日本では茶禪一体で、茶道と座禪は二つにして一つの道である。

ある日、主人は用事で都へ上ることになり、茶人と別れるに忍びず、お前も私と一緒に来て、毎日茶を立ててくれと言った。しかし、社会が不安定な時代で、浪人や武士が強い力に任せ、はばかりことなく横暴な振る舞いをしていた。

その茶人は心配で主人に言った。ご覧のように私は劍術のたしなみがありません。万一、途中で危険な目に遭ったらどうすればいいんですか？

主人は、お前は剣を腰に差し、武士の身なりをすればよいと言った。

茶人は武士の服装に着替え、仕方なく主人に従い都に上った。

ある日、主人は用事で出かけ、茶人は一人で外をぶらぶら散歩していた。

其の時、向こうから一人の浪人がやって来て、茶人をけしかけ、お前も武士なら二人で剣の勝負をしようと言った。

茶人は、私は剣術の出来ないただの茶人ですと言った。

浪人は言った、お前は武士でもないのに武士の身なりをして、武士の尊厳を侮辱するのか、この剣で切り殺してやる！

茶人はもう逃れられないと思い、しばらくご猶予ください、主人に頼まれた事を済ませてから、今日の午後、池の辺で会いましょうと言った。

浪人はちよつと考え、では必ず来るのだぞといった。

この茶人はまっしぐらに都で最も有名な剣術道場に駆けつけた。道場の外に剣術を学ぼうとやって来た人達が集

まり列を成していた。茶人は人の群れをかき分け、直接剣術の大先生の面前に進み出て言った、武士として一番面目の立つ死に方を教えてください！

剣術の大先生は非常に驚いて言った。わしの所にやってくる者は、すべて生きることを願うためであり、死ぬ事を求めてきたのはお前が初めてだ。それはどういう理由か？

茶人は浪人と出会ったいきさつを一通り話して、その後、私は茶を立てることしか出来ませんが、今日は人と決闘せざるを得なくなりましたと言った。あなたにお願いして、方法を教わり、尊厳のある死に方をしたいのです。

剣術の大先生は言った。よかろう。先ずお前がわしに茶を一服立ててくれ、それからお前に方法を教えてやるう。

茶人はとても感傷的になり、これはおそらく私がこの世で立てる最後の茶となるでしょうと言った。

彼は心を込めた仕草で静かにせかず慌てず泉の水が小さな釜の中で湧くの見守り、そして茶葉を入れ、茶葉を洗い、茶を濾してもう一度少しづつ茶を注ぎ、両手で

捧げ、劍術の大先生に差し出した。

劍術の大先生はずっと彼が茶を立てるの一挙一動を見守り、一服茶を味わって言った。これはわしが生まれてこの方飲んだ一番美味しい茶だった。お前に教えてやるう。お前はもう死ななくてもよくなつたぞ。茶人は言った、先生は私に何を教えてくださるのですか？

劍術の大先生は言った、わしはお前に教える必要はない、お前は茶を立てる心を忘れずに、その浪人に向かえばそれでよいのだ。

その茶人は聞くとすぐ、約束した相手に会いに行つた。浪人はすでにそこで茶人を待つており、茶人を見つけるやいなや、劍を抜き言った。お前が来たからには、わしらはすぐに劍術の試合をしよう！

茶人はずっと劍術の大先生の言葉を考えながら、茶を立てる心でこの浪人に相対した。彼は笑みを浮かべて相手をじつと見ていた。その後、悠然と帽子を取り、きちんと傍らに置いた。さらにゆつたりとした上着を脱ぎ、少しずつ丁寧にたたみ、帽子の下に置いた。そして、たすきを取り出し、中の着物の袖口をしっかりと結び、また袴の裾をしっかりと束ねた。彼は頭のとっぺんから足の先

まで、せかず慌てずに自分の装束を整え、気持ちは落ち着き、表情はゆつたりしていた。

向い合つた浪人は見ていると益々緊張し、だんだん分らなくなつてきた。浪人は相手の劍術がどれ程奥深いのか推測できないからである。相手の目つきや笑顔が浪人をますます怖気づかせた。

茶人がすべて装束を整え終わると、最後の動作は劍を抜き事、サツと劍を高く振りかざし、そこで停めた、そのあと劍をどう使うかも分からなかつたからである。

この時、浪人はドタツと茶人の前に膝まずき、言った。お助けください、あなたは私の一生の内で出会つた最も劍術の優れた人です。

実際、どのような劍術が茶人を勝たせたのだろうか？つまり、心の勇氣であり、その落ち着いた、沈着な氣迫である。

だから技法が一番重要なのではなく、技法以外のものが心の悟りに必要なのである。

氣持ちは明るく、慈悲深くて心が広く、正直で勇氣があれば、あなたは思いもかけない沢山のものを得るでしょう。人は皆すばらしい事をあなたに話したいと思う

が、もしも逆なら、誰をも分け隔てしない孔子であつても、牛に琴を聞かせるような事はしないだろう。

子曰く、「ともに言うべくしてこれと言わざれば、人を失う。ともに言うべからずしてこれと言えは、言を失う。知者は人を失わず、亦た言を失わず。」《論語、衛霊公》

孔子は言った、人が道理についてあなたの話しを聞いてくれるのに、あなたがその人に話さなかつたら、「人を失う」と言う。あなたはその人を取り逃がすことになり、好くない、反対に、その人には全く道理を説いて論すべきでないのに、その人に道理を語る。それは「言を失う」と言い、やはり好くない。

他の人が付き合いたい、付き合ってもよいというような人になんかあなたがなりたければ、明るい気持ちを持つことが一番大切である。これが論語に言う、心の清らかなことだわりのない気持ちである。

この気持ちと度量が生まれながらの思い通りにならぬ事を補うだけでなく、生まれて後の過ちをも補うことができる。同時に、あなたに沈着な勇氣を与え、生命を元氣いっぱい充実させ、大きな喜びを与え、人生を最

も効率よいものとして、毎日新しい輪廻をめぐらせ、併せて、これらの新鮮な養分を他の人にも流れやすくする。

「論語」が私達に与えてくれるものは永遠に変転する人生の筋道である。私達は文章や話の一部を自分に都合よく解釈、引用してはならず、硬直した理解をしてはならない。昔の聖人賢人の思想の真髄があなたの血液の中を流れ始めた時、あなたの喜ぶ態度それ自体が古典に対する現代人の表わす最高の敬意なのである。

### 追記

現在、中国では「論語」が再び注目を集め、于丹の「《論語》心得」は入手困難なほど人気のある書です。

中国は改革解放後、著しい経済発展を遂げました。反面、日本と同様に少子高齢化、経済格差など多くの問題を抱えています。中国の人達はそんな社会をどの様に生き抜き、「論語」から何を学ぼうとしているのでしょうか？

私達にも何か「論語」に学ぶものがあるのではないのでしょうか？

【俳句】

切干

花冷えや履べり著き麻痺の靴  
諸蔓を山と積みたり藪の口  
放たれし鶏一列に櫓田へ  
枯尾花他力でゆれてるばかり  
切干のちりちり緊まる夜の湯浴み  
鶏小屋にますぐな雨や寒明くる  
冴え返る汀に赤き靴濡れて  
ふらここや夕日の腹を蹴上げ漕ぐ  
真蒼な風をおこしてぶらんこよ  
大八を軒深く吊り苗代寒

牧野和代



玫はま  
瑰なす

岩田 禎彦

阿波箏笥

上田 善次

坂道は海へまっすぐ花ダリア  
流木は鳥の形して夏礼文  
玫瑰の花は盛りに無人駅  
駅長は屈伸運動月見草  
風防ぐ棚は齒抜けに土用波

目が合ひし蜥蜴思案の立止り  
廻廊や黒光りして足冷ゆる  
山鳥の山さん気きつんぎき冬に入る  
鷄締めて葱抜く故郷こくにへ里帰り  
花冷えや暗き納戸の阿波箏笥

新 緑

岩田 久代

長 閑

岡 良子

女医さまの眼科医院や梅二本  
縁台を出して開花を待つばかり  
甲羅干す亀は一列春の川  
新緑のかたまりとなり森動く  
落葉浮く天誅組の手水鉢

鹿の脚自在に出入り鳩長閑  
朱の萼を裂きてふくらむ梅白し  
ホルンの音飛火野めぎす冬の鹿  
身を包む夕オルに残る柚子湯の香  
八ヶ岳の連峰の空初菫

一年の事々

周藤 智子

秋晴れ

藤澤 慶子

緑蔭や人の目を射る子連れ猫

暑き砂利踏みきて堂の仏たち

梅雨最中暮れかけてより晴れにけり

青北風あおきたやこの道近し美術館

幹事無事終へし一と日や年惜しむ

炭俵納屋の明りの一つ窓

番傘の中に舞ひくるぼたん雪

枯るるもの枯れて夕日に唐辛子

甘えたき人なき子後や梅雨暗し

秋晴れや佛に見ゆる医師の顔

祝 酒

立石 和恵

福井佐知子

襟元をなほし合ひして浅き春

かざす手の埋み火の赤透きとほる

年祝ふ訛りやわらか母の郷里

どこまでもどこまでも花ひとり旅

名月に生まれし夫と祝酒

黒潮の渦巻くあたり桜鯛

露けしや目をふせ在すマリア像

カーブミラーに映っていたり焼諸屋

照紅葉明りとなりし登山口

蝉時雨大仏殿を包みけり

揚雲雀

西田たまみ

揚雲雀雲の近くで点となる  
日焼子の白い歯大きく笑ひをり  
掛軸の読めずじまいや文化の日  
マスクの目黙礼をして過ぎゆけり  
春塵を鎮める雨となりにつけり



## 【短歌】

いとしき鳥ら 石井光子

燕らの一夜泊まりて旅立ちし宮跡みやあとの芦原刈りとられゆく  
電線の一番上にただ一羽ホケキヨと鳴きゐる五月のあした  
バス停の人に馴れたる二羽の鳩我の行く手を首振り歩む  
うつせみと黄泉よみをつなぎし埴輪の舟貴人の座がありきぬがさも付く  
人の世をはかなく思うこの日頃長雨止みて空の蒼濃き

## ピアノと私

大浦 小枝子

触れたれば五十年間とび去りてピアノ習ひし Teenage となる  
三連音符ゆつくり弾きて間違へてこれが私のムーンライトソナタ  
メトロノームの調子にのれぬ指先のよろめく上をリズムは駈ける  
映像のショパン弾きゐるピアノニストに老いの両手を合はせて気取る  
「雨だれ」のショパンの雨音ラの音が曲を通して降り続きゆく

## 春の夢

岡田越子

同年の夫と競いて日々励む夫は仕事に吾は趣味にと

茶稽古の和菓子の銘は「春の夢」去りゆく友はお薄を点てる

皆で贈る抹茶茶碗よ去る友は茶碗飾りのお手前をする

菜の花を手のぬくもりにて矯ためむとき生きあるものを思う活花

大寒に春を先どりせむと活けるあじさいの芽とチューリップの黄を

## 合歓の花

木庭和子

柞葉の母を見舞ふと伊勢路行けば盛りの合歓の花群さわぐ

友の声ゆるらに響く廊の端その明るさを救ひと聞きし

大輪を重ねにかしげあじさるの色勝りゆく三室戸の寺

柿若葉たくさん花つけ実を落とすえらびぬかるるみのりのちゑは

国境いくつ過ぎしや汽車の旅背梁せきりょう越せば変る水流

## 早春の島

玉置 小代

小さき島の迷路のやうな坂のぼれば海ひらけ見ゆるき弧描き  
離れ島に夕べ不幸のありしかや葬りの黒衣が庭に干さるる  
さくらまだ芽吹かぬ山の枯れ草を押し上げて咲く水仙のむれ  
微風そよかぜに小さく揺るる桜草は飾れる簪のごとし  
乗り遅れてぼんやり座るバス停にそよぐ葉裏の白きを視てをり

## 緑 蔭

中野 眞智子

走り梅雨我が家目指して犬と共に辿り着くなり雨降り出せり  
もろもろの心のもやはらさんと遠くに霞む山桜見ゆ  
何所からか小鳥が運びしもみじ苗茎も太りて庭に鎮座す  
五月晴庭師の鋏こち好く響きて進み我梅雨仕度  
雲が切れ青葉時雨る並木道犬に曳かれて駈て通れり

## 一輪の花

馬場 恭子

菌糸植え楯木並べし義父<sup>ちち</sup>逝くも今裏山に椎草息づく  
雨後の朝椎草の傘太りゆき亡父<sup>ちち</sup>の面影また近くなる  
七草粥すずしろの名も美しく今朝食卓はほのかに香のたつ  
先駆けて咲きいでし水仙一輪の花の白きが哀れ小さく  
寒風に身を晒しつつ立つ芒強くなりたしかくしたたかに

## わが趣味は

松村 せつ子

いい短歌を残したいと思いつついい短歌とは何まだ道遠し  
十年來楽しんできた押し花も師が退ぞかれ我も幕閉づ  
琴は好き演奏会の華やぎと弾き終えし後の充実感も  
花を描くその愉しさに魅せられてツールペイントを習い始める  
わが趣味は打ち込む事が出来ぬまま好奇心のみ広がりにゆく

## 春爛漫

森田陽子

万葉の碑の点在す神苑に 藤咲き競い春日遅し  
春弥生 上弦の月輝やきて夜目にも白じろ梅の咲き満つ  
友の息子の結婚式を寿ぎて華やぐ藤の留袖を着る  
教え児の演奏会の報ありて藤房ゆれし学舎を憶う  
恙無く金婚の日を迎え得て紅きキャンドル静かにゆらぐ





# グループからの便り

## 吟詩の会

平尾 成子

私は、今年八十二歳になります。幼い頃から音楽が苦手で、「調子はずれ」と言われても本当に駄目でした。

別に気にしていませんでしたが、楽しくはありませんでした。その私が、どうして詩吟に興味を持ったかと申しますと、私には娘が二人居ります。長女はピアノが大好きで、幼児教育に熱中しておりました。家族で長野方面

の温泉旅行に行き楽しみました。「何だか疲れた」と長女は申し、事が起こったのはその後でした。翌朝トイレで倒れたのです。彼女は四十二歳、まだ若いので「まさか」と思いましたが、病院で脳梗塞。それも脳天を直接やられているので、手の下しように無いとの事。何とも突然で呆然として、わけが分からなくなりました。唯おろおろとして、手術を受けましたが、平成六年九月「こ

こはどこ？」の言葉と子供二人を残して旅立ちました。

それから、夫婦共夢か現かの生活でした。何を見ても何故私かとの思いが去りませんでした。それから、夫の発病、難病のパーキンソン病です。病院へ通いつつ涙が止まりませんでした。ガリガリにやせて、食べる事も出来ず亡くなりました。悲しみをおさえ、心を配る次女の姿に又涙でした。

ぼんやりしている私に、次女が「気が晴れるかも知れないよ。詩吟の教室があるから、行って見たら」と言ってくれました。ふらふらと見学に行き、澄んだ声、格調の高い詩に心が動き、ひよっとしたら詩吟でつぶれかけてる心が助かるかと思ったのです。夫と娘を亡くした私に、何か灯がついた様な気がしました。

先生はじめ皆様方の御親切に、下手ながら段々好きになり、七十歳代から始めましたのに、今では、なくてはならないものとなりました。本当に、ありがとうございます

ました。気分が悪くても、詩吟を聞きますと、すつきり  
致します。何卒、今後共よろしくお願い申し上げます。  
平城西公民館で月二回おけいこしております。皆さんも  
御一緒に詩吟を楽しみませんか。



## 料理を楽しむ会

川崎 泰子

平城相楽ニュータウンに移り住んで二十年、周りの人達との交流も深まり、趣味に遊びにと元気で楽しく過ごしております。

二人の息子達もそれぞれ独立し、私もパートの仕事で止め時間の余裕が出来た。そんな時「料理を楽しむ会」の存在を文化協会の講座案内で知り、早速友達三人で入会し、色々な料理を教わり早や三年になります。

今では夕食を何にしよ  
うかと迷うこともなくレ  
シピの数も増えワンパ  
ターンの料理もなくなり  
ました。

主人も喜んで何を食べ  
させてくれるのかなあと



言いながら楽しみにしている様子です。

総勢二十数名皆和気藹々と各グループごとに分かれ時々失敗しては先生に注意されながらも出来上がった料理に満足し、おいしくいただいています。

料理に関心のある方は、毎月第三木曜日十時から平城西公民館にてご参加をお待ちしております。

## 中国語講座

馬場 恭子

中国語同好会に入会させていただいて五年が経過しました。退職後何か語学を学びたいと思っていたところ、運よく初級クラスがスタートすると聞き受講させていただきました。全くの初心者で不安はありましたが中国語の美しいリズムのある会話や歌を聞いたり、同じアジアの隣国ということ、また漢字圏ということで親しみを持ったこともきっかけでした。学ぶうちに声調の難しさ日本語にない発音に苦労しながらも熱心に御指導下さる松村先生の優しいお人柄に支えられ続けてまいりました。いつまでも初心者の域を脱げることができず

にいますがこれまでを振りかえると随分多くの皆さんとお知りあいになれ、また、いろいろなことを学ばせてもらったと感謝しています。

奈良女子大学に留学中の学生の皆さんとの交流会、右京団地に来日されていた李さんに中国の歌を教わったこと、中国茶のお茶会と二胡の演奏会、つい最近では御主人の仕事の関係で来日されている揚さんを囲んでの餃子パーティーなど楽しい思い出が沢山あります。会員の中には中国でお仕事をなさっていた方、御主人が中国に赴任されている方、戦争中、中国での体験のある方や幼少時中国で過ごされた方、御息のお嫁さんが中国の方、現在お嬢さんが中国に留学なさっている方、二胡のお上手な方、何度も中国への旅行体験のある方など多彩な顔触れで楽しい雰囲気の中での学習です。

今、中国は、北京オリンピック、四川省の地震と毎日ニュースで取りあげられ、中国語を耳にしない日はありません。その中で学習した言葉や会話を聞き、少しでも理解できることがあると、得をした気分になり、より身近な出来事として把握することができます。

現在使っているテキストはNHKラジオ中国語講座と

世界中で人気ナンバーワンの中国語テキスト漢語会話三〇一問で、各々のレベルに合わせて先生は根気よく指導して下さいます。学習の中では単に中国語の単語、文章の成り立ちだけでなく、言葉に潜んでいる日中の文化の相違点についても学ぶこともできます。解り、使えるようになるのはまだまだですが、勉強は何年続けてもやはり大切なことだと痛感している今日此頃です。

皆さんも御一緒に学んでみませんか？



## 短歌を楽しむ会

中野眞智子

ぶらりと、この北部会館に立ち寄り、たまたまこの教室を覗きこんだのをご縁に入会させていただきました。早やもう二年が経ちました。

今まで深く短歌をやってきた訳ではなく、唯ぼんやりと日々を過ごして来て、これから何か頭や身体を使ってする事をしなければと思っていた所でした。入会してからは、月に二首の歌を作って出すのが精一杯で、今までの皆さんの足を引っ張りながらもやって来られた事も不思議に思われるほどです。歌というのは、その人が今まで生きてこられた人生観、哲学が出ているとつくづく感じておりますが、一番年下の私にとつては諸先輩方の意見や生き方を学べる事が何よりの勉強になります。皆さんこちらに来られる時には、それぞれおしゃれをされて来られる事も感心しており、また短歌の他に多々趣味をお持ちなのにもビックリしております。良い年の取り方を学ぶ事が出来ただけでも良かったと思っております。勿論私としては短歌の方は、より一層精進を重ね



て行きたいと思っております。

## 「俳句とわたし」俳句入門

福井佐知子

平城山句会にご縁をいただきましたのは、ご近所である平城院の牧野和代先生からのお誘いでした。「国語の成績は五段階の三でしたから、自分は才能もセンスもありませんご勘弁ください」と逃げ腰でした。ところが今では良き先輩よき友に恵まれ偏りのない心と目で人生や美しい日本の「今」を詠みながら俳句を愛し楽しむ幸せな世界にご一緒させていただき四年目の会員となりました。話す時考える時人は言葉を使ってコミュニケーションをとるだけでなく、自分の思いを発信することができ俳句の素晴らしさに気付きはじめました。言葉を大切にしてみ聞きして思った様々な事柄を句にしてこれからも人生を耕やし「いい人」であるかはともかく「いい生き方」ができればと思うのです。自然と対話のできる寛い精神を養って十七字のリズムをもっともっと好きになり

たいと思っているこのごろです。

俳句は字の勉強、言葉の勉強、さらに感性を大いに高めます。俳句を詠むことが脳の活性化に非常に効果があるとの実験的証明もなされています。

毎月第二木曜日の一時からの句会を是非一度のぞきに來てくださいませ。

## 萬葉集講座

吉田 治正

平成元年開講された、松岡先生講義の本講座は、本年二十年目に入った。大正四年生まれと言われる先生の研究と教授の熱意には、一同感じ入っている。

先生が創意工夫を加えて作成された詳しいテキストは現在六八五枚に及ぶ。

この一年半ばかりは、先ず山部赤人の作歌を、紀伊、吉野、播磨灘における長歌三首、短歌十三首について、犬養孝、外語学者の著述や地図などを併せつつ教わり鑑賞し、次いで、山上憶良に入り、同人の「日本挽歌」関係五首、「惑へる情を反さしむる」長歌（その一部を左

に記す」と短歌を教わり

父母を 見れば貴し 父母乎 美禮婆多布斗斯

妻子見ればめぐし愛し 妻子美禮婆米具斯宇都久志

世の中は かくぞ道理 余能奈迦波加久岐許等和解

鶴鳥のかからはしもよ 母智騰利乃可良波志母與

行方知らねば

由久弊斯良祿婆

ここ数回は、同人作の「痾に沈みて自ら哀しむ文」という長い漢文に入り、漢文入門の返り点、一二三、上中下、置字（不発音字）、呉音、漢音、唐音のことなどを教わりつつ読み進んでいる。この漢文教授の前に先生は「抱朴子」という絶版本を苦心して入手され、これが憶良の長い漢文の種本になっていることを突止められた。

その上で、先生は「憶良は、よく勉強しているなあ、萬葉集はこのような漢文も載せているのだ」と述べられていた。この漢文が終われば「老いたる身に病を重ね、年を経て辛苦し、兒等を思ふに及ぶ歌七種」に進む予定である。

本講座の受講者は、ここ数年若干名の入、退者があつたが、二十三名前後を維持し続けている。

ところが最近教室にしている北老春の家の室の確保が競争があつて難かしくなり、世話役の大浦小枝子さんの苦勞が大きくなっている。協力して講義二十周年を迎えたいものである。

## 絵画の会

上田 善次

約二十年前日本経済がおかしくなり、御存知のバブルが弾け営々三十年にわたり築いてきたものがあつと言つて間に吹つ飛び、味気ない日々を悶々とした気持で送つていた頃がありました。生甲斐を失つた虚脱感から立ち直ろうとあれもこれもと考えて見ましたが埒があかず焦りの気持が募るばかりでした。

或る時気紛れに描いた絵を知人に差し上げたところ大変喜ばれ、暇な毎日をもてあましていた時でもあり、描く事によつて日々が充実してゆく自分を発見しました。描き初めは写実に腐心し綺麗に仕上げる事に汲々とし全く個性のない絵を描き自己満足に浸っていました。

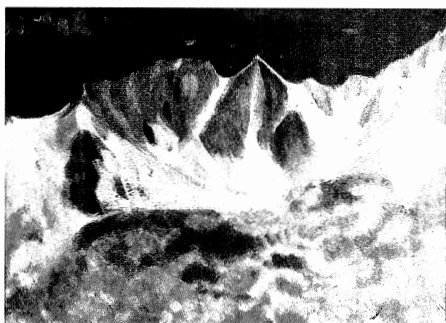
けれど御多分に洩れず一年、二年と経るうちに自分の



大台 雅生



上田 善次



山田 ツル子



西村 通弘



辻中 修



小西 淑彦



絵に疑問を持つ様になり、暗中模索をする日々が続き完全に描く事が私の生甲斐となつてしまいました。

そんな時、平城ニュータウンで生活をしている娘から文化協会の存在を知らされ、当時東大阪に住んでいた私は種々な事情を抱えながらも生甲斐は絵画と決め、神功六丁目に転居、文化協会の絵画教室でお世話になる事となりました。以来十年、良きお友達にも恵まれ又個性ある作品に接し、生甲斐のある充実した日々を送れる様になりました。又、グループの方々もその人なりの思惑や家庭の事情で次々と変わり、現状は絵画教室と云うよりも絵画グループ的な雰囲気を持つた集いとなつてまいりました。教える事もなく教えられる事もなく作品に対する感想を糧に自由な発想を大切にしてグループの方々は余生を有意義に過ごして居られます。芸術とか芸事と言うものは教えられるものではなく探求してゆくものだと私は信じております。

上手下手に拘わらず自分の想いをキャンパスに表現してゆく楽しさを味わつてみませんか。絵画に興味をお持ちの方はどうぞ入会され共々切磋琢磨して真実を探求して行こうではありませんか。入会をお待ちしております。

## 歌声サロン

玉置 小代

♪ 野に咲く花のように雨にうたれて

野に咲く花のように人を和やかにして・・・

時にはつらい人生も雨のちくもりでまた晴れる

この「野に咲く花のように」(作詞杉山政美・作曲小林 亜星)が私たち「歌声サロン」のテーマ曲です。いつも最後に、次もまた元気で合えるようにと心をこめて唱えます。

ご存知の方も多い曲だと思いますが、今の世で忘れかけている柔らかな言葉でけなげな心を呼び起してくれる気がいたします。

この会は平成十八年春にスタートし、小島順先生のやさしく熱心なご指導を受けて続いています。「大きな声と一緒に歌うことは心にたまつたものを排出して生理的快感を得る」との先生のお言葉通り、次回を待ちかねて集つていきます。およそ二十曲近くを皆で次々とリクエストしながら先生の弾いて下さるピアノで歌っています。

二十五名ほどの参加者の年齢に幅はあっても、「歌声サロン」というネーミングにふさわしく、童謡、フォーク、シャンソン、演歌、何でもありで時の経つのを忘れず。少し早目に集まって、お好みの珈琲、紅茶、緑茶で喉を潤しながらのオシャベリも楽しめます。

もともと私は音楽を聴くのも、歌うのも大好きなのに高い声が出ず、上手く歌えませんでした。でも恥ずかしく思いながら文化祭の舞台にも立ち、歌う喜びを知りました。

この会は、小島先生の温かさで、皆さんのお人柄が相俟って和やかな雰囲気が続いて行くことでしょう。お昼近くなりエンディングの曲を歌ったのち、皆で後片付けをして解散です。

毎月第二金曜日の午前北部会館3F（多目的室1）のドアを押して一緒に歌って下さい。お仲間入りをお待ちしています。



## 古典文学を読む会

藤澤 陽子

紫式部作「源氏物語」を読んでいます。五十四帖の第一帖「桐壺」の巻より読みはじめており、「いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、

いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり」と皆で声を揃えての音読（群読というらしいです）につづき浅田先生の親しみやすくわかりやすい解説で一時間半がアツという間に過ぎていきます。先生の講義はユーモアとウイットに富んでいます。

時々、関 弘子さんの朗読のテープを聞かせて下さって、旧仮名遣いのままの発音を聞いているうちに千年前の平安朝の雰囲気に入る思いになります。

あの長大な物語の構成をまとめあげた、紫式部のテクニクには目まいをおぼえる位。教われれば教わるほど奥深く面白く、典雅な文章による自然描写、心理描写、社会構成など貴族社会をのぞき見している思いになります。全体の話の展開もおもしろいのですが、一つの小さな言葉の意味にも現在と違う使われようがあったりし

て、「へー」と驚くことも再三。勿論はじめて耳にする言葉も沢山出てきて、先生の解説でもわからなかった時は気軽に質問して納得している次第です。度々笑い声も出たりして、しかめっ面をしている人は一人もいません。これだけで教室のなごやかさがお察しいただけると思っています。

二〇〇七年の文化祭では全員舞台上に上り、先生より解説をいただきながら、源氏物語絵巻のスライド、群読、関 弘子さんの朗読のテープなどと、これも浅田先生の企画・構成がバッチリ！

右京ふれあい会館での教室では、鶯の声、時鳥の声、秋には鈴懸の球果が垂れ、春には藤の花が咲き、（藤壺や紫の上を連想させます）その他四季の花々に目を楽しませ、源氏の庭園の美とはまた違った趣があります。

毎月第一と第三の土曜日、午前十時より十一時半までです。まだお席に余裕があります。どうぞお越しくださいませ。

## 表装の会

吉田小夜子

表装とは、本紙を傷まないように保存し、書画を引き立たせる役割を果たすもの。

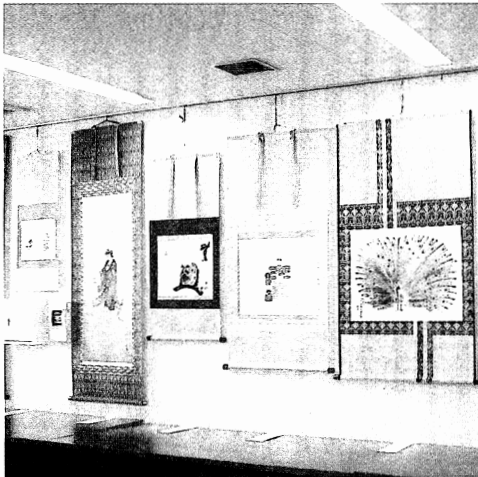
私達は京表装を基本とした指導のもとに、主に自作の書画を掛軸にしています。そして、この作品を秋の文化祭に出展します。

掛軸を一幅完成するには、糊で接着して乾かすの繰り返しで、約1ヶ月要します。慣れたからといって速く出来るものではありません。本紙と裂の色、柄、風合の取合わせと寸法で趣を娛しむ一期一会です。裂と総合統一しえた軸に出来上がった時は感無量です。そして私の宝物です。

現在は六名の会員で、各々が書や画を書き文化や歴史など情報交換を豊かに、そして一つ一つを新鮮な気持ちで楽しく取り組んでいます。先日、私は平城京大極殿瓦模様の拓本を明朝仕立に表装しました。工程中は平城京の歴史を学びながら創る楽しさを味わいました。又、亡き母の形見の着物をほどいて掛軸を作りました。現代風に

アレンジしたり創作したりいい勉強です。と同時に母の思い出がいっぱい詰まっているのを掛軸として飾っているのは、非常に嬉しいものがあります。そして守ってくれている気がします。妹弟達にも作ってあげ、喜んでくれています。

長く書道に携ってきた私は、これから軸に似合う作品を書いて趣ある掛軸を作っていきたいという夢が大きく広がり始めています。



## 「パソコン・ヨチヨチ」パソコン教室

山元 洋子

パソコン教室は昨年（二〇〇七年）九月末に第一回の講座が始まったそうです。

「そうです」と言うのは、私はそれから二ヶ月ばかりおかれて入れていただいたからです。

はじめは十人くらいで、とりあえず右京のふれあい会館で、リーダーや会員の方々がパソコン持参でした。

それから、かれこれ九ヶ月、最初からの方が大部分ですが、多少は出入りもありました。場所も、今は平城西中学校のパソコン教室を、学校側の特別の御好意でお借り出来るようになり全員、パソコンを使って勉強しています。

講座の開設当初は、毎週木曜でしたが、現在は月二回大体第一と第三木曜日午後一時三十分から始まります。会員の年齢も八十才代から四十才代くらいまで、ずい分はばがあります。能力も、既に簡単な操作は出来るが、もっと応用力をつけたいという方から、パソコンの機械

に触った事もないという現代の文盲とも呼ぶべき人種まで、（かく申す私の事です）実に大きな能力差があります。山奥の分教場の複式授業でも、これ程の学力差は考えられないかも。云つてみれば幼稚園児と受験を控えた高校三年生が一緒に授業を受けております。この難事をリーダーの浅田先生をはじめ、サブリーダーの会員の方々が支えて下さっているのが現状です。

さて、パソコンの機械の開け方も分からないヨチヨチグループにも「リンゴマークはここにあります。ハイ、プチンと押しましょう」から始まったこの講座ですが、文章の打ち方、カレンダーの作り方、案内文の作成、写真の入れ方と、一回一回行ったり戻ったりしながら何とか前進を続けています。

毎度、頭の中が空っぽになって又一から教えてもらわねばならないのは、私を含めてあと一人か二人くらい。こんな例外人物は街のパソコン教室に通っていたら、とつくに退学勧告を受けている事でしょう。でも、でも私達の先生はアイソもつかさず「うん、これはこうするの」と教えて下さるのです。残念ながら、それをノートに書きとめておこうとすると、もう右向いて、左向くと

忘れているのです。かくて私のノートには、書きかけの同じ文句が何度も書きつけられ、ノートは部厚く汚くふくらんでしまいました。現在のところ会員数は一人人で、ほぼ安定してきました。勉強が嫌いで、学校に行く日は朝からお腹が痛くなるおぼちゃんだつて、もうパソコンを開く事は出来るようになりました。続ければ新しい世界の扉を開けることも可能かもと夢を持ち続けています。

## 先史学講座

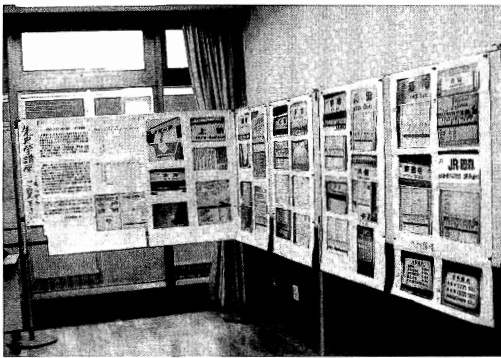
堀口 千秋

先史学講座では、泉先生共著の「考古学の基礎知識」を読み進めている。硬くなった頭には一人で読むのは理解しがたく、少しずつ皆で輪読し、先生に詳しく解説していただきながらの牛歩的進み方である。

又、新聞による、その折々の先史学関連記事を交えてお話してくださることもある。十月の朝日新聞に「種まき縄文人痕跡続々」の記事についても、先生の研究なども含めて講義があり、現在のハイテクの技術や研究の裏

話等々説明していただいた。二月には、檀原考古学博物館で開催されていた「藤原京の実態」を見学に出かけ、縄文土器や石器を先生の説明を聞きながら見て回った。二上山産のサヌカイトで作った石器の分布図など興味深く一般の入館者も熱心に説明される先生のお話を聞き入る一場面もあった。

いい先生に恵まれ、今後も現地学習を加え、意欲ある先史学講座に発展していきたいとねがっている。



## 押し花を楽しむ会 野原 雅子

「おし花」と言えば、半世紀以上も前の小学生の頃のこと、夏休みの宿題に、野山で摘んできた草花を新聞紙やわら半紙に挟んで押したものです。植物採集として提出するのに、花の名前が分からず、調べるのに一苦労したのも、今は、なつかしく思い出されます。先生から、丸をもらって、戻ってくる頃には、少し色あせていたように思います。

今はどうでしょう。化学的な乾燥処理をした紙のマットに花を挟み、幅広のゴムバンドをかけて、圧力を加え袋に入れて数日おきます。すると、挟んだ時と同じように鮮やかで、きれいな色の押し花ができ上がります。まさに驚きです。

花だけでなく木の葉は、もち論のこと、しだやこけ、野菜や果物など、何でも挑戦できそうです。

私は、六年前、近所の先輩の方から「文化協会に押し花教室があるよ」と教えていただき見学に行きました。とても親切に優しく教えておられた先生、その教えを受

けておられた教室のみなさまも、お花が大好きで、やさしくて親切な方ばかりでした。早速、お仲間に入れていただくことにしました。

先生からいただいたお花で初めて作ったのがブローチでした。ピンセットで小さなお花を挟んでの細かい作業でした。世界に一つしかない素敵なものができ、とてもうれしかったです。

花の押し方にもだんだん慣れ、少し大きめの額の作品に取組むようになりました。風景にも挑戦しました。

作品を仕上げる時には、まだまだ先輩たちに手助けをしてもらっています。

押し花を一から教えてくださった廣崎光子先生が、この三月でお辞めになられて、とても残念でなりません。さびしい限りです。先生が自宅のお庭で咲かせたお花をよく持って来られて、きれいに押す押し方を教わりました。後で、お花をみんなで分けたり、家の庭に植えたりしました。今、それぞれのお庭で、きつと咲き誇っていることでしょう。ほんとうに長い間いろいろとご指導いただきありがとうございます。ご健康とご多幸をお祈りいたします。

四月からは、娘と同世代の若い、高橋かおり先生に、ご指導を受けることになりました。新しい感覚で、若いパワーをいただいでの出発です。どうぞよろしくお願ひします。月一回、第四水曜日の教室ですが、この日を、みんな待ち遠しく思っています。





## 古文書への誘い

山田 一夫

私たちの「古文書を読む会」は平成十六年十月に開講当初二十名の受講者でスタートして以来三年半、現在まで会員を減らすことなく出席率も毎回一〇〇％に近いという稀有の会です。

その魅力の第一は古文書自体が実に面白いということ。言うまでもなく古文書は、その時代に実際の必要に応じて作成されたもので、手紙の一部には謀略の為の偽書もない訳ではありませんが、大方は真実の文書であり、歴史の資料として第一次的な貴重なもので、まさに歴史の実際に直接触れる機会でもあります。これほど知的好奇心を掻き立てるものはありません。特に歴史のお好きな方は是非ご参加ください。

第二に日本の書き言葉の時代的変遷が良く解ります。

戦後は常用漢字、新仮名遣いだけが学校で教えられ、戦後の小説や記録はそれだけでも読むことが出来ますが、第二次大戦以前の日本のあらゆる文書・文学作品・記録などは、すべて旧仮名遣い、文字はいわゆる正字で書か

れ、さらに溯れば中国からの漢字の伝来以来、最初は大  
方の公文書は漢文で書かれ、その後仮名文字の発明後も  
返って読む読み方、書き方、漢文調の言い回し、候文が  
ごく日常的に使用されてきました。古文書の読み方を勉  
強することは、この日本の書き言葉の変遷を知ること  
よって、失われつつある日本語の美しさを再発見するこ  
ともあります。

第三にこれは特筆大書すべきでしょうが、講師が受講  
者の目線で懇切丁寧に基本的なことを繰り返し説明され  
質問のしやすい雰囲気づくりに努められ、巧みな話術で  
受講者を飽きさせないように気を配っていただいている  
ことです。また提供していただいている教材も、ある時  
代に偏らず、ある種の文書に限らず、いろいろな種類の  
文書、例えばその時代の権力者による政治支配のための  
お触書、その時代の教養人知識人の日記・随筆・記録、  
庶民の間のもめ事の始末のための文書・覚書・手紙、商  
家の雇主奉公人間で交わされた約定書・定書、関所通過  
のための通行手形から昔の新聞に当たる瓦版などまでを  
とりまぜ、難易度の高いものと初心者向きの比較的易し  
いものを手く組み合わせ、途中から参加される方には

早く一定の水準に達するように、当初より参加されている方には自分の実力を確認出来さらに難解な文書に進む意欲を持たせるように工夫していただいています。これは、他の商業的講座には絶対に見られない優れた魅力です。観光にお出かけになった時、名所・旧跡・社寺・博物館・美術館・宝物館などの文書・由来書・石碑・句碑・歌碑などすらすら読めれば、どんなにか楽しいことでしょう。

多くの方々のご参加を歓迎します。月二回、第二・第四土曜日、十時より十二時まで、右京ふれあい会館でやっています。気楽に見学にお出で下さい。



## 韓国語講座

高松美枝子

「アンニョンハセヨ（こんにちは）」

ふんわり、春風のように教室に入ってくる金星先生。私達生徒全員の目が金星先生に注がれる。ほっそりとしなやかな、真に美しい女性である。

毎月第一、二、三の金曜日午前十一時から十二時迄の時間、右京小学校の一室が韓国語の学びの場である。生徒数は十三人。スタート時から、かなり会話の出来る人もいれば、私のように「サランヘヨ、ヨン様」（愛しています。ヨン様！）しか知らない者もいて、初めから能力差はあったが、金星先生は、挨拶、自己紹介などから始まり、身近かな会話に重点をおいてくれて、現在も、「レストランはどこにありますか？」

「階段の横にあります」

というような、旅行会話としても直ぐに使える、簡単な会話をやっており、今からの入会も十分OKである。

右、左、前、後というような混乱しそうな単語が出てきたりすると、金星先生は、私のような飲み込みの悪い生

徒がいることを分かっており、韓国語を離れ、韓国人のもの考え方、習慣などを話してくれて、しばし全員で日本人と比較したりして話が盛り上がり、楽しいひとときとなるのがよくあるのだ。

金星先生は、日本語がかなり達者だが、外国人特有の、日本人はしないであろう表現をすることが時々あり、私達はその言い方を直している内に、自分達もよく分からなくなり、あれやこれやと、日本語の学びの場となってしまうのは、おかしなことである。

外国語を学ぶということは、華やかさや、きらめきとは程遠いが、簡単な言葉でも思わず口について出てきたりするのは、とてもうれしいものである。

碧き海の彼方の隣国に思いを馳せ、ご一緒に韓国語を学びませんか。





## 「ビーズと私」

### ビーズアクセサリーの会

岡村 則子

ビーズアクセサリーと私の出会いは、ご近所の住吉先生に誘って頂いたことからでした。それまで、素敵だなあと思っておりましたが、中々チャンスが有りませんでした。

始めてみまして、とても楽しく、完成するとすぐく達成感があり、ハマってしまいました！ 無心になって物作りをするのはいいものです。

先生には、本当に丁寧に教えて頂き、先輩方にも親切にして頂き、月一回の教室が待ち遠しいです。

買物に行きましても、ビーズの所で足が止まり、どうやって作られているのだろうと、じっと見てしまいます。友達や妹にも、作ってプレゼントしますと、とても感心され喜ばれます。

先生の御苦労を思うと大変心苦しいのですが、この会がずっと続いてくれますようお願いしております。

## 読書会

山内 梅乃

テネシー・ウイリアムズ著

平成十九年度 活動報告

四月二十七日 赤い子馬      スタイン・ベック 著

五月二十五日 アブラクサスの祭り      玄侑 宗久 著

六月二十二日 あかね空      山本 一力 著

六月二十九日 文学講座

講師 浅田 隆先生（奈良大学文学部教授）

演題 風の王国      五木 寛之 著

七月休み

八月二十四日 落日燃ゆ      城山 三郎 著

九月二十八日 義民が駆ける      藤沢 周平 著

十月二十六日 アサツテの人（芥川賞受賞作）

諏訪 哲史 著

十一月・十二月休み

一月二十五日 新春の集い

創氏改名      梶山 秀幸 著

二月二十二日 脱出      吉村 昭 著

三月二十八日 欲望と云う名の電車

しつかり読んで、楽しくおしゃべりしましょう。

毎月第四金曜日 十時

右京ふれあい会館でお会い致しましょう。

## 折り紙を楽しむ会 山田 玲子

終戦後の何も無い時代、友だちと着せ替え人形を作って遊んだのが、一番楽しかった思い出です。

それだけでなくどんな紙でも取っておき、いろいろな物を作っています。

出来上がった形には、お互い心を通じ合えるものです。また、指先を動かすことにより脳を刺激し集中力や創造力を高めることも知りました。

これいいな〜と思うと夢中になって折っています。

「折り紙を楽しむ会」にいらして下さい。

皆さんといろいろ挑戦して折っています。

不器用だから、きちんと折れない。など心配はいりません。そういうことは気にせず楽しむことです。うまく出

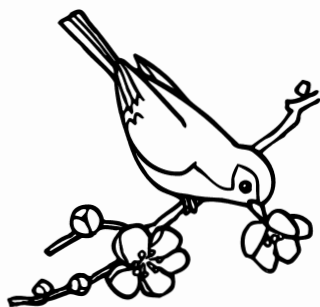
来上がります。

私は、ある時大阪の百貨店で「和紙展」が開催された時、偶然和紙を陳列されているところに、小林 一夫様（内閣）府認証NPO法人国際おりがみ協会理事長ゆしまの小林の四代目）に「唇」を教えて頂きました。

その後丁度同窓会の幹事に当たった時で、早速「唇」を沢山折って持っていく、皆さんにお配りしましたところ、「昔できなかった事。だから」と大変喜んで下さいました。

折り紙は、誰でも楽しめるもの、そしてコミュニケーションも生まれるものです。

皆さんのご参加をお待ちいたしております。



## 英語講座（初級・中級）

村上 寛子

英語講座で、忘れてしまっている英語の基礎から学びたいと思い、受講し始めて六年が過ぎてしまいました。初級は中学二年生の教科書を使用して勉強しています。会話を暗誦したり、英語の文法となると難しくなかなか思い出せなくて苦労しています。年令的にも記憶力は落ち、何度も何度も同じ事を繰り返しながら頑張っています。中級では、ドリッピーの物語のリスニングをします。回を重ねていくうちに少し易しい単語とか、構文はわかるようになってきました。又、短い話を読んだりそのストーリーを要約して各自発表したりしています。毎週月曜日の午前九時半から十一時半までの二時間ですが英語の歌を唄ったり講座の中での色々な国々の言葉や文化にふれる事で、その国に旅行して見た事感じた事など話はずみ広がっていく楽しみも味わっています。



[文化祭] パッチワーク研究会・ビーズアクセサリーの会 展示

# 第25回 平城ニュータウン(平成19年)文化祭

〔展示会〕 11月2日～4日 会 場 北部会館文化ホール（3階）

- ◆俳 句（俳句入門 平城山句会）
 

岩田 久代	牧野 和代	岩田 禎彦
立石 和恵	上田 善次	岡 良子
	西田たまみ	福井佐知子
- ◆押し花（押し花を楽しむ会）
 

伊藤 京子	奥谷 敏子	景山 光代
木村 絢子	杉山 安枝	鈴木 幸子
西田 安代	西本万優美	野原 雅子
御手洗敦子	山中優美子	吉田 敬子
- ◆園 芸（園芸の会） 北村 孫衛
- ◆パッチワーク（パッチワーク研究会）
 

打田 照子	新司 輝江	榎原千鶴子
井本 市子	島川恵美子	菅 知尋
堀部 澄枝	服部 淑子	吉川 晋子
- ◆絵 画（絵画の会）
 

小西 淑彦	大台 雅生	上田 善次	西村 通弘
山田ツル子	辻中 修	清水 夕子	故三木 昭夫
- ◆表 装（表装の会）
 

西島 芳子	岩坪 昇	岡本 一枝	金附みさ子
富田三千子	藤原 栄壽	吉田小夜子	
- ◆短 歌（短歌を楽しむ会）
 

石井 光子	大浦小枝子	岡田 越子
木庭 和子	玉置 小代	中野真知子
松村せつ子	森田 陽子	安田 和子
- ◆日本酒ラベル・写真地酒の会
- ◆古文書「毛利輝元感状・徳川家康訓戒・豊臣秀吉朱印状・瓦版」（古文書を読む会）
- ◆ビーズアクセサリー（ビーズアクセサリーの会）
 

新司 輝江	岩淵 淳子	岡村 則子	景山 光代
片岡 圭子	川崎 泰子	島川恵美子	杉山 安枝
田中 絹江	玉置 小代	寺谷 征子	西田 安代
平田 久栄	山内 梅乃		
- ◆文化財と駅の案内板（先史学講座）
 

泉 拓良	山内 梅乃	
------	-------	--

パブリック考古学を日本の文化財に当てはめた学習の一環として、展示。
- ◆写 真（デジカメ講座）赤坐 右一
 

高橋 良直	西村美佐子	宮崎 滋子
-------	-------	-------
- ◆ 筥（筥作りの会）
 

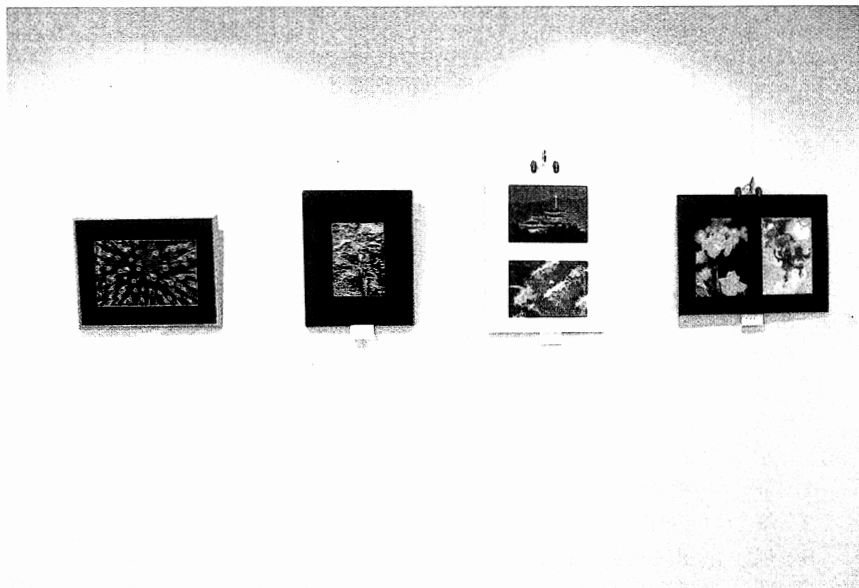
山内 梅乃	秋山 静	新司 輝江
-------	------	-------
- ◆折り紙（折り紙を楽しむ会）
 

山田 玲子	山内 梅乃	渡邊 千津
河井智恵子	笥 ゆり子	小山田美智子
西村美佐子	西島 芳子	片岡 圭子
- ◆花風雅織（花風雅織同好会）
 

倉内 喜江	新司 輝江	八田 和子
服部 純世	山内 梅乃	
- ◆お茶席 お抹茶（2・3日）お煎茶（4日）（お茶を楽しむ会）
 

		山内 梅乃
--	--	-------





[文化祭] デジカメ講座 写真展示



[文化祭] トールペイントの会作品 展示

[上演会]

日 時 11月3日(祝) 12:30開場・13:00開演  
 会 場 北部会館文化ホール(3階)  
 主 催 平城ニュータウン文化協会  
 財団法人 奈良市文化振興センター

開会 挨拶 13:00 主催者代表・来賓

◆ 箏 曲 13:15 菊池雅千絵ぐるーぷ翔

かざろい / 松本 雅夫 作曲  
 箏 今村雅千春  
 三味線 村山かほり  
 樹 冠 / 長沢 勝俊 作曲  
 1 箏 菊池雅千絵・南湖雅千紗・吉本 康子  
 2 箏 河村 梨花  
 3 箏 山内 正子・田處 節子  
 17 絃 今村雅千春  
 尺 八 河路 円山

◆ 詩 吟 13:50 詩吟の会

コンダクター 西尾弘子  
 常磐雪行 / 梁川星巖作 独吟) 西村 諄輔  
 九月十三夜 / 上杉謙信作 独吟) 平尾 成子  
 悲しい酒 / 渡辺岳吟作 連吟) 小山マサ子・西釋 和美  
 (歌詞) 石本美由起 是永ユキ子・松尾 淳子  
 川 中 島 / 頼 山陽作 独吟) 富江 八重  
 海を望む / 藤井竹外作 独吟) 杉田 英二  
 母 / 松口月城作 連吟) 川崎 泰子・中務 明美・岩井 静栄  
 辰巳 幸子・西脇 岑子  
 富 岳 / 乃木希典作 独吟) 花田 清美  
 名槍日本号 / 松口月城作 連・合吟) 平尾 成子・小山マサ子・西釋 和美  
 是永ユキ子・松尾 淳子・富江 八重  
 川崎 泰子・中務 明美・岩井 静栄  
 辰巳 幸子・西脇 岑子・西村 諄輔  
 杉田 英二・花田 清美

◆舞 踊 14:20

舞 踊「十三夜」 久門 富美

大 和 楽「舞」 岩井 梅香

長 唄「娘道成寺」 岩井 照華

(振り鼓・振り傘)

「鹿兒島小原節」「まりと殿様」

松村せつ子・中西 敬子・山内 梅乃・村上 照・宮崎 滋子

湯川 博子・森岡きみえ・岡田 越子・若原 和子・五十嵐玲子

◆マジック 14:50

井上 雄司・岩井 静栄・岡田 越子・西脇 岑子・毛利 公子

◆英語で歌いましょう 15:15 初級・中級英語講座

曲目 Try to Remember

A Thousand Winds

I Am a Thousand Winds

橋本 友子 村上 寛子・新司 輝江・山内 梅乃・石井 光子・木村有美子

小山マサ子・金山 祥子・高岡 文子・熊田てる子・鈴木 時子

堀田 幸子・中務 明美・高松三枝子・西尾 弘子・大浦 貞子

山本みどり・井下 経子・鍋島 美晴

◆源氏物語を読む 15:35 古典文学を読む会

浅田 知里 大浦 貞子・岡田 越子・川端和加子・熊谷富士子・島川恵美子

鈴木 久子・西嶋 芳子・馬場 恭子・藤沢 陽子・堀口 千秋

松村せつ子・山内 梅乃・山田伊都子・吉田 治正・渡辺 千津

◆歌声コーラス 16:00 歌声サロン

曲目 野に咲く花のように・誰もいない海・野菊・夏の思い出・千の風になって  
誰かさんが誰かさんが・見上げてごらん (トーンチャイム演奏)

小島 順 上田 善次・樺原千鶴子・五十嵐鈴子・大野 絹・大河原文子

岡田 越子・小山マサ子・河井智恵子・川崎 泰子・川端和加子

岸本 咲子・喜多 正恵・黒田 節子・小泉 晃一・田井さち子

辰巳 幸子・巽 勝代・玉置 小代・富江 八重・仲川 栄子

西本 信義・平尾 成子・松村せつ子・三宅美恵子・山根 直美

吉江 園子

16:25 閉会 挨拶



「観月宴」（2004年10月1日・神功四丁目池公園集会所）で、講演される初代会長 網干善教 先生と、松岡禮一 層富編集部(現)顧問（写真中央）



「網干善教先生を偲ぶ会」（2007年7月15日・平城西公民館）で先生の若き日のビデオを鑑賞し、遺影に献花致しました。その後、花鹿に席を移し、御子息の善信氏（写真前列左）をお迎えして、思い出話に花が咲きました。

## 「広田さんを偲ぶ」

平成十九年十月、平城宮跡でお弁当を食べ乍ら「三月歩く会最後の行事どこへ行きたい？」と聞かれ、思わず「橿原の今井町へ行きたい」と言った。

「一月は繁昌亭に行こう」などなど色々な楽しみを残して逝ってしまった広田さん残念……でも、いっぱい楽しい思い出ありがとう。文化協会大好きの広田さん、千の風になって見守って下さい。

亡き人の面影を追う夏帽子

あじさいや友旅立ちて千の風

喜多 正恵

~~~~~

明るく元気な 広田さんが亡くなられたこと、今もなほ信じられない思いでをります。文化協会の拓本を楽しむ会でご一緒してより、グリーンブライトの合唱に至る

まで二十年余り、たのしいお付き合いをいただいでみました。

昨年暮れに私共の宅に見え、半日に亘り何や彼やといつものように冗談交じりに話こんで帰へられました。新年早々入院されたと聞きお見舞い参上した処、歩く会の予定が九月まで出来てゐると言つて、皆を驚かせそのあと又冗談を言つて笑わせて居られたのですが、まさかこんなに早くお別れするとは思つてもをらず、残念の極みです。

黄泉の地に行かれても、網干先生や寛先生らとも相変わらず明るく冗談をとばしてをられることでしょう。どうぞやすらかにお眠り下さい。

弔 句 山 歩

なら山に見送るばかり初蛩

沙羅の花ほほえみばかり眼裏に

込山 博介

~~~~~

広田さんが入院されたと聞いても、きつと元気になって、又「：歩く会」で何処かへ連れて下さると信じて居りました。近くてもまだ行ったことのない所、何げなく通り過ぎていた所等、もつともつとご一緒させて頂きたかったのに、本当に残念としか云い様がありません。

文化協会の方々とは勿論の事、ご近所の人達とも顔を合わせると「広田さんが：：」の後に大きな溜め息、「ええ人でした」「色々お世話になりましたん」と、その死を悼み、労をいとわず、まめにお世話を下さった事を感じするばかりです。

この会でも又毎年の文化祭でもカメラマンとしてその折々の記念に残る写真をたくさん写して下さいました。

「：歩く会」を引き継がれたのが、平成六年と聞きましたが、途中参加、それも自分の都合の良い日、行きたい所のみ参加という全く我がまま勝手な私にも、いつも笑顔で接して下さい、穏やかで優しいお人柄で皆を楽しませて下さいました。

平成十八年九月二十四日「歩く会」で吉野へ向う電車の中で明日香（稲淵）の彼岸花が見頃ではないか、ぜひ行きたいとの声が多く、当日のコースの資料を用意して

下さっていたにも拘わらず快く変更して下さいました。

この日のために何枚ものプリントを用意し、準備に時を費やされたのにと深く反省し申し訳なく思っています。が、あの時の満開の彼岸花の美しい鮮やかな色が今も目の奥に残っています。広田さん本当にありがとうございます。

合掌。

島川恵美子

広田さんが亡くなられたと聞いたときはショックでした。そのうちお元氣になられて、又「歩く会」で一緒にできるものとはかり信じておりましたから。

十一月十八日巻向界隈の古墳を歩いたのが最後になりました。

沢山の思い出をいただき、きつとご一緒に歩いたあたりを通るとき、広田さんの笑顔を懐かしむことでしょう。広田さん！ ありがとう。安らかな眠りを祈って。

堀口 千秋



~~~~~

廣田さん、有難うございました。長い間お世話になりました。いつもにこにこことなごやかな面影しか思い出せません。

御一緒に歩かせていただいた最後のコースでは（十一月十八日）少し冷たい風が吹いていたように記憶していますが、廣田さんのリードで和氣藹々の「…歩く会」でしたね。「三輪そうめん山本」で入麴をとっておしゃべりしながらゆっくりお昼をしましたね。年が明けたら新年会をしようと皆で言っておりましたのに残念で残念でたまりません。でもこれまでの御尽力は皆の胸の中に残っております。本当にありがとうございました。

~~~~~

藤澤 陽子

~~~~~

廣田省吾さんは、人生の目的を持ち、希望実現の為に皆さんと共に、充実した幸福な今を生きるという文化協会の精神を体現した人です。先導者は網干先生、大橋先生、松岡先生方ですが「…歩く会」は「誰でも何時でも参加できる」という、他の協会に無い文化協会独自の会の理想的な在り方の実現に努力された方です。

私は、過去に様々な会に参画しましたが、何の会も、娯楽など一時的な世話活動ばかりでした。この地に來た時、此処が生活文化や習慣の異なる人々の集まりだということがわかりました。その人々の生活の調和の為に奈良の文化・生活習慣に学ぶとともに、高度な意味での「趣味」を共有することではないかと思ったのです。

~~~~~

そこで、スポーツ協会、文化協会、教育懇談会、社会福祉協議会、万年青年クラブ等の設立、地区内施設の建設の要望など発意しました。施設については当時の田中幸夫市議会議員がご努力下さいました。スポーツ協会については地区自治連合会の稲田武一初代会長が、文化協会については網干先生、大橋先生、永田さん、松岡先生と廣田さんがご尽力下さいました。今日の恵まれた文化活動が出来るのも、廣田さん方の御陰です。しかし、廣田さんは、余りにも懸命に努力された為に志半ばで逝去されました。

~~~~~

廣田さんに感謝し、ご冥福を祈ります。

~~~~~

梶野 哲

~~~~~

## 花の思い出

長い歴史のある「歩く会」に参加させていただいたのは三・四年前からでしょうか？ 毎回楽しく参加させていただきましたが、花の好きな私には春の桜・秋の彼岸花がとて印象に残っています。春の桜は毎年花の開花にぴったりの日で、十七年度は「大山崎山荘」、十八年は「上賀茂神社から下鴨神社」、昨年は「山科の昆沙門堂から桜並木の疎水道」を歩きましたが、いつも満開の桜を堪能しました。

九月は、御所を歩く予定で、吉野口まで切符を買いながら、車中で「明日香の彼岸花が満開」と聞き、飛鳥で途中下車、明日香の棚田に咲きほこる彼岸花を満喫しました。

翌年の九月も明日香路を歩き彼岸花と黄金色に実った稲穂、ユーモラスな「かかし」達と出会い、楽しかった事を思い出します。春には桜、秋には彼岸花と、美しい花の中をのんびり歩かせていただき、至福の時でした。いつも写真を撮っていたとき、当時のアルバムを見なが

ら懐かしく思い出しています。いつお会いしてもニコニコと穏やかで優しい広田さんの笑顔忘れられません。心残りは「今年の一月は繁盛亭の寄席に連れて行ってあげよう」と言われておられたのに病に倒れられ、本当に悲しい事でした。歩きながらも冗談が好きで、いつも私達を笑わせて下さった広田さんでした。

昨年末頃「もう来年三月で他の人に代わってもらって自分一人でのんびりと好きな時に好きな所を歩いてみたい」と言っておられましたが、それも果たされず旅立ってしまった。

どうぞ天国ではのんびりと愉しくお過ごし下さい。いっぱい思い出を本当に有り難うございました。

松村 せつ子

合掌。



有り難うございました

廣田さん

有り難うございました。

当時、『万葉集の講座』をも担当しておりました関係で、年齢的にも、体力的にも、どうやら限界に達したように思われましたので、なんとかして、「……歩く会」を、どなたかにお願ひ致したい、と考えておりました。平成六年の事です。それまで、この会で、いつも一緒に緒させてもらっていただきました廣田省吾さんに、無理矢理、お願ひする事にしましたら、すぐ、快く引き受けていただく事が出来ました。

廣田さんの、温厚なお人柄に敬服しておりました私ですし、その上奈良のお生まれの人と聞いておりましたので、是非この会を引き受けていただきたかったです。

本当に、有り難く思いました。

廣田さんは、必ず二、三度下見に行かれていろいろ

したし、又、関係の本などをよく研究され、同行の人々が納得し、喜んでもらえるように、色々、勉強もされ、随分、研究もされておられました。

お願ひして、暫くの間は私も、下見にもお供をさせてもらっておりましたし、又、本番の時にも参加させてもらっておりました。しかし、とうとう私の体力が駄目になりましたので、何もかもすつかり、お任せするようになりました。

それから、いろいろ研究されて、奈良だけでなく、京都方面などにも足を伸ばされ、会員の皆様の要望にも応えるよう、随分心を砕かれておられました。

本当に、良き方に、お願ひする事が出来た……と、私は、いつも感謝しておりました。

その廣田省吾さんが、

本年、六月五日、帰らぬ人になってしまわれました。

残念、無念、悲しみの極みです。

残念でなりません。

惟、只、残念でなりません。

病院へお見舞えに行きました時は、そんなにお悪いように拝見しませんでした。

もうすぐ「退院」という、良いお報せを受けるもの、と思っておりました時です。その連絡は……。

残念、無念。

只、惟、悲しみの極みです。

廣田省吾さん。

長い間、お世話になりました。

本当に、有り難うございました。

心から、御禮申し上げます。

心から、ご冥福を、お祈り申し上げます。

今は、惟、心から、

ご冥福をお祈り申し上げます。

合掌。合掌。

松岡 禮一 拝



平成18年9月 明日香 彼岸花に囲まれて

## 平城ニュータウン文化協会第26回(2008年度)総会

日 時 2008年5月25日(日)午後1時30分～2時15分

会 場 奈良市北部会館3F多目的室1

I 開会の辞

II 上田善次会長代行挨拶

III 来賓祝辞

IV 議長選出

V 議事

- ① 2007年度事業報告
- ② 2007年度会計報告・監査報告
- ③ 役員選出
- ④ 会則改正
- ⑤ 2008年度事業計画
- ⑥ 2008年度予算
- ⑦ その他

VI 閉会の辞

記念講演「中国の都市は、どう変わったか」午後2時30分～4時

講 師 奈良大学 学長 石原 潤 先生



## 2007年度事業報告

2007年

- 4月10日 層富編集委員会  
29日 右京地区歓送迎会（参加）  
29日 ニュース（1号）発行
- 5月6日 層富編集委員会  
27日 第25回（2007年度）総会  
記念講演「モンゴル城壁都市の考古学」  
講師 奈良大学文学部文化財学科准教授 千田 嘉博 先生
- 6月23日 層富編集委員会・層富発行
- 7月1日 ニュース（2号）発行  
15日 網干先生偲ぶ会
- 8月8日 理事会
- 9月1日 ニュース（3号）発行  
30日 文化祭打合わせ
- 10月25日 ニュース（4号）発行
- 11月2・3・4日 文化祭  
展示の部（3日間）  
網干先生遺作展・古文書を読む会・絵画の会・短歌を楽しむ会  
園芸の会・花風雅織同好会・筥作りの会・地酒を味わう会  
デジカメ講座・俳句入門・パッチワーク研究会・先史学講座  
ピースアクセサリーの会・表装の会・押し花を楽しむ会  
折り紙を楽しむ会
- 2日 講習会（ピースアクセサリー）  
3日 上演の部  
詩吟（詩吟同好会）・舞踊（踊りを楽しむ会）・箏曲（ぐるーぶ翔）  
英語で歌いましょう（英語講座）・歌声コーラス（歌声サロン）  
源氏物語朗読（古典文学を読む会）・マジック（マジック同好会）
- 11月3日 講習会（朱肉付き判子入れ）  
3・4日 体験講座（押し花を楽しむ会）  
4日 記念講演「中央アジアの考古学」講師 京都大学教授 泉 拓良 先生  
4日 バイオリン・ピアノコンサート  
演奏者 バイオリン 小山 佳子 ・ ピアノ 田村 英子
- 2・3・4日 お茶席
- 12月27日 ニュース（5号）発行
- 2008年  
2月28日 ニュース（6号）発行

## 2007年度決算報告

2007年4月1日～2008年3月31日（単位円）

### 〔収入の部〕

| 項目     | 予算      | 実績      | 増減      | 備考          |
|--------|---------|---------|---------|-------------|
| 前年度繰越金 | 94,010  | 94,010  | 0       |             |
| 会費     | 426,000 | 393,000 | △33,000 | @1,500×262人 |
| 後援費    | 70,000  | 70,000  | 0       | 各自治連合会・自治会  |
| 寄付金    | 3,000   | 0       | △3,000  |             |
| 雑収入    | 6,990   | 19,093  | 12,103  | 利息・余剰金      |
| 合計     | 600,000 | 576,103 | △23,897 |             |

### 〔支出の部〕

| 項目    | 予算      | 実績      | 増減       | 備考         |
|-------|---------|---------|----------|------------|
| 事業費   | 140,000 | 140,000 | 0        | 文化祭・セミナー   |
| 助成金   | 0       | 0       | 0        |            |
| 会議費   | 5,000   | 4,350   | △650     | 会議・資料他     |
| 広報費   | 350,000 | 299,310 | △50,690  | 会誌・会報・ニュース |
| 事務費   | 5,000   | 4,883   | △117     | 事務用品他      |
| 印刷消耗費 | 80,000  | 0       | △80,000  |            |
| 通信費   | 3,000   | 1,620   | △1,380   | 郵送料など      |
| 渉外費   | 5,000   | 1,000   | △4,000   | 協賛費        |
| 雑費    | 1,000   | 0       | △1,000   | 項目にない出費    |
| 予備費   | 1,000   | 0       | △1,000   |            |
| 積立費   | 10,000  | 10,000  | 0        |            |
| 小計    | 600,000 | 461,163 | △138,837 |            |
| 次期繰越金 |         | 114,940 | 114,940  |            |
| 合計    | 600,000 | 576,103 | △23,897  |            |

特別会計 南都銀行スーパー定期 ¥35,854・網干基金 ¥193,351・備品 コピー機1台

## 会計監査報告

2007年度の会計帳簿・証券類他・関係書類を精査した結果適性である事を認めます。

2008年4月1日 監事 東 毅  
監事 西村美佐子

## 2008年度役員名簿

| 常任理事                                                                                   | 監事                                                 | 会計                              | 事務局長           | 副会長 | 会長    |
|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------|----------------|-----|-------|
| 松村せつ子<br>花田 清美<br>西村美佐子<br>西島 芳子<br>鈴木佐知子<br>小島 順                                      | 木庭 和子<br>北村 孫衛<br>大迫くき枝<br>打田 照子<br>石川 恒久<br>赤坐 右一 | 松岡 禮一<br>橋本 友子<br>玉置 小代<br>梶野 哲 | 喜多 正恵<br>松村 如洋 | 東 叡 | 上田 善次 |
| 理 事                                                                                    |                                                    |                                 |                |     |       |
| 宮崎 滋子<br>馬場 恭子<br>住吉 紀子<br>山内 梅乃<br>大井 政子<br>河村美智子<br>山田 綾子<br>笥 ゆり子<br>小西 淑彦<br>西田たまみ |                                                    |                                 |                |     |       |

### 平城ニュータウン文化協会会則一部改正

第一章 総則 第二条 事務局は平城西公民館に置く。

→ 下記の様に改正致しました。

改正 総則 第二条 本部は会長宅に、事務局は事務局長宅に置く。

## 2008年度事業計画（案）

### はじめに

当「協会」は、地域での日常的な文化活動を通して、地域コミュニティ・住民の親睦と和を実現していくために、当時の自治会・連合会の「街づくり」の方針のなかで結成推進されてきたものです。

この設立趣旨にそって、地域住民の多くの方の参画を期するとともに、会員の研究、創作発表、相互の交流などの場としつつ、地域文化の発展に寄与することを基本としていきます。また、地域4自治連合会をはじめ、スポーツ協会、教育懇談会、地域社会福祉協議会などの各団体の活動とも連携して、引き続き「街づくり」に貢献していきます。

### 主な計画

- 1 講演会の開催（総会記念講演・文化祭記念講演）
- 2 セミナーの開催
- 3 会誌「層富」の発行
- 4 会報の発行（全戸配布）文化協会協会案内号・文化祭案内号
- 5 ニュースの発行（隔月発行予定）
- 6 大和路見学会（春1回・秋1回）
- 7 文化祭の開催
- 8 観月の夕べ
- 9 年間を通じて趣味の講座開催
- 10 その他 拠点づくりの為の渉外活動。

会の発展を期しての工夫など会員各位の提案、役員会決定などに基づき適宜事業を推進する。

## 2008年度予算（案）

2008年4月1日～2009年3月31日（単位 円）

### 〔収入の部〕

| 項 目    | 金 額     | 備 考         |
|--------|---------|-------------|
| 前年度繰越金 | 114,940 |             |
| 会 費    | 345,000 | @1,500×230人 |
| 後 援 費  | 70,000  | 各自治連合会・自治会  |
| 寄 付 金  | 0       |             |
| 雑 収 入  | 15,060  | 銀行利息他       |
| 合 計    | 545,000 |             |

### 〔支出の部〕

| 項 目   | 金 額     | 備 考             |
|-------|---------|-----------------|
| 事 業 費 | 150,000 | 文化祭・セミナー他       |
| 助 成 金 | 87,000  | @3,000×29講座・同好会 |
| 会 議 費 | 10,000  | 会議・資料他          |
| 広 報 費 | 258,000 | 会誌・会報・ニュース他     |
| 事 務 費 | 10,000  | 事務用品            |
| 通 信 費 | 3,000   | 郵送料             |
| 渉 外 費 | 4,000   | 協賛費など           |
| 雑 費   | 2,000   | 項目に該当しない必要経費    |
| 予 備 費 | 1,000   |                 |
| 積 立 金 | 20,000  |                 |
| 合 計   | 545,000 |                 |

特別会計 積立金合計 ￥55,854 網干基金 ￥193,351



# 2008年度組織分担

〔層富〕編集部

(顧問) 松岡 禮一

上田 善次

梶野 哲

玉置 小代

西村美佐子

馬場 恭子

広報部

(部長) 梶野 哲

文化祭上演部

松村 如洋

喜多 正恵

小島 順

文化祭展示部

(部長) 鈴木佐知子

北村 孫衛

打田 照子

赤坐 右一

住吉 紀子

行事部

(部長) 東 叡

松岡 禮一

組織部

(部長) 松村せつ子

配布部

神功地区(松村せつ子)

第1団地 大野 絹

1丁目 河村美智子

1丁目 藤沢 陽子

2丁目 福井佐和子

3丁目 谷口三枝子

4丁目 高松三枝子

5丁目 寛 ゆり子

6丁目 上田 善次

右京地区

第2団地 佐々木純子

3丁目 飯田 雅子

山内 梅乃

下司まさ子

片岡 圭子

4丁目 岡田 越子

4丁目 山田 綾子

赤坐 右一

管 千尋

5丁目 石川 敏子

右京団地 西村美佐子

朱雀地区(鈴木佐知子)

1丁目 宮崎 滋子

井本 市子

2丁目 玉置 小代

3丁目 村上 寛子

4丁目 鈴木佐知子

5丁目 堀田 幸子

4丁目 日下部清美

第1住宅 鈴木 和子

第1住宅 大井 政子

鈴木佐知子

第2住宅 永井 圭子

6丁目 小島 順

左京地区(喜多 正恵)

1丁目 杉山 安枝

2丁目 喜多 正恵

3・4丁目アルス高の原

相楽台 黒田節子

小山マサ子

# 平城ニュータウン文化協会会則

## 第一章 総 則

第一条 この協会は、平城ニュータウン文化協会と  
いう。

第二条 本部は会長宅に、事務局は事務局長宅に置  
く。

## 第二章 目的及び事業

第三条 会員の研究・創作発表、知識の交換並びに  
会員相互間及び他の文化団体との連携、提  
携の場となり、相互文化に関する進歩普及  
をはかり、地域文化の発展に寄与すること  
を目的とする。

第四条 前条の目的を達成するために、次の事業を  
行う。

- 1 講演会・研修会・展覧会・発表会・文  
化講座の開催。
- 2 関連文化団体との連携及び協力。
- 3 研究の奨励及び研究業績の表彰。

## 第三章 会 員

- 4 会誌の発行。
- 5 その他、目的を達成する為に必要な事  
業。

第五条 平城ニュータウンに在住又は勤務する者  
で、協会の目的に賛同する者とする。

会員の種別は次のとおりとする。

- 1 正会員 年会費 1,500円  
但し、高校生500円

- 2 賛助会員 この協会の趣旨に賛同する  
者で、年間会費5,000円以上収め  
る個人又は団体とする。

- 3 会員の更新手続きは不要とするが会費  
は総会後3ヶ月以内に納入のこと。  
但し、2年間会費納入なき場合は退会  
と見做す。

## 第四章 役 員

第六条 協会には次の役員を置く。

会長1名、副会長3名、常任理事若干名、  
事務局長1名、事務局次長1名、会計1

名、理事若干名、監事2名。

第七條 理事は、正会員中より選出する。

2 会長、副会長、常任理事は理事の互選で定め、総会の承認を得る。

3 事務局長、事務局次長、会計は、理事中より会長がこれを選任し、総会の承認を得る。

4 監事は、会員中より2名選出する。

第八條 会長は、協会を代表する。

2 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は代行する。

3 理事は理事会を組織し、協会に関する事項を審議し執行する。

4 常任理事は理事会の決定に基づき業務遂行にあたるとともに、総会で決議した事項を執行する。

5 事務局長は、会務の遂行に関する理事会、常任理事会などの決議に基づき全般の事務連絡処理にあたる。

6 事務局次長は、事務局長を補佐する。

7 会計は、会計事務を処理する。

8 監事は会計帳簿を監査し、通常総会において報告する。

第九條 顧問・参与を置くことができる。顧問・参与は理事会の同意を得て、会長が委嘱する。

2 顧問・参与は会議に出席して意見を述べることができる。

2 補欠より選出された役員は、前任者の残任期間とする。

第十條 役員は、その任期満了でも、前任者が就任するまで、尚その職務を行う。

2 役員は、その任期満了でも、前任者が就任するまで、尚その職務を行う。

2 役員は、その任期満了でも、前任者が就任するまで、尚その職務を行う。

## 第五章 会 議

第十一條 理事会は必要に応じ、会長が招集する。但し、理事の3分の1以上から会議の目的を示して請求のあった時は、理事会を招集しなければならない。

2 理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。

2 理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。

3 理事会は、理事2分の1以上出席しなければ、議事を開き議決することはいかない。

4 理事会の議事は出席理事の過半数をもって決し可不同数の時は議長が決す。

第十二条 常任理事は、会長、副会長、常任理事、事務局長、会計によつて構成し、必要に応じ会長が招集する。以下理事会に準ずる。

第十三条 通常総会は毎年1回会長が招集する。

2 臨時総会は、理事会が必要と認めたる時、会長が招集する。

3 総会の議長は出席者の中から指名する。

4 総会の議事は出席者の過半数をもって決し、可不同数の時は議長が決する。

第十四条 次の事項は通常総会に提出して、その承認を受けなければならない。

- 1 事業報告及び収支決算
- 2 会計監査報告

3 事業計画及び収支決算

4 その他、理事会において必要と認めたる事項

#### 第六章 会 計

第十五条 経費は、会費ならびに補助金、その他の収入による。

第十六条 会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日に終わる。

#### 第七章 会則の変更

第十七条 この会則は、総会の議決を得なければ変更することができない。

#### 第八章 補 則

第十八条 この会則施行についての細則は、理事会の議決を得て別に定める。

第十九条 この会則は、昭和五十八年二月二十七日から適用する。

第二十条 この会則第一章第二条は、平成二十年五月二十五日の総会で改正。

## 平城ニュータウン文化協会 2008年 講座・同好会

|    | 定期講座・同好会           | 講師・担当者                                                    | TEL                | 曜日・時間                                      | 予定会場                    |
|----|--------------------|-----------------------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------------|-------------------------|
| 1  | 万葉集講座              | 松岡 禮一                                                     | 71-2964            | 第1水曜 (13:30 ~ 15:30)                       | 北部会館3F会議室               |
| 2  | 先史学講座              | 泉拓 良<br>山内 梅乃                                             | 71-1654            | 第3金曜 (15:00 ~ 16:30)                       | 右京ふれあい会館                |
| 3  | 古文書を読む会            | 石川 恒久<br>西村美佐子                                            | 71-1671            | 第2・4土曜 (10:00 ~ 12:00)                     | 右京ふれあい会館                |
| 4  | 古典文学を読む会<br>「源氏物語」 | 浅田 知里<br>藤沢 陽子                                            | 71-1956            | 第1・3土曜 (10:00 ~ 12:00)                     | 右京ふれあい会館                |
| 5  | 読書会                | 山内 梅乃                                                     | 71-1654            | 第4金曜 (10:00 ~ 12:00)                       | 右京ふれあい会館                |
| 6  | 英語講座               | 橋本 友子                                                     | 71-0395            | 毎月曜初級 (9:30 ~ 10:30)<br>中級 (10:30 ~ 11:30) | 第1月曜のみ右京小学校<br>右京ふれあい会館 |
| 7  | 中国語同好会             | 松村 如洋                                                     | 71-9605            | 毎木曜初級 (9:00 ~ 10:30)<br>中級 (10:30 ~ 11:30) | 北部会館会議室1                |
| 8  | 韓国語講座              | 金 <sup>キム</sup> ソンド <sup>ソン</sup> 熙 <sup>ヒ</sup><br>鈴木 和子 | 71-8390            | 毎金曜1・2・3 (11:00 ~ 12:00)                   | 右京小学校                   |
| 9  | 俳句入門<br>(平城山句会)    | 牧野 和代<br>岩田 禎彦                                            | 71-1777<br>48-0760 | 第2木曜 (13:00 ~ 16:00)                       | 平城院                     |
| 10 | 短歌を楽しむ会            | 木庭 和子                                                     | 71-3494            | 第3火曜 (13:00 ~ 16:00)                       | 北部会館会議室1                |
| 11 | デジカメ講座             | 赤坐 石一                                                     | 71-0111            | 第1・3水曜 (9:00 ~ 12:00)                      | 北部会館会議室1                |
| 12 | パソコン講座             | 浅田 知里<br>山内 梅乃                                            | 71-1654            | 第1・3木曜 (13:30 ~)                           | 平城西中学校                  |
| 13 | 絵画の会               | 大台 雅夫                                                     | 72-0456            | 第1・3火曜 (10:00 ~ 12:00)                     | 北老春の家会議室1               |
| 14 | 料理を楽しむ会            | 松村せつ子                                                     | 71-9605            | 第3木曜 (10:00 ~ 12:00)                       | 平城西公民館                  |
| 15 | 園芸の会               | 北村 孫衛                                                     | 71-0823            | 第4木曜 (13:00 ~ 16:00)                       | 右京4-7-5講師宅              |
| 16 | 詩吟の会               | 西尾 弘子<br>花田 清美                                            | 71-2787            | 第1・3水曜 (13:00 ~ 16:00)                     | 平城西公民館                  |
| 17 | 歌声サロン              | 小島 順                                                      | 71-5651            | 第2金曜 (10:00 ~ 12:00)                       | 北部会館多目的室1               |
| 18 | 踊りを楽しむ会            | 山内 梅乃<br>宮崎 滋子                                            | 71-1654<br>71-5093 | 休会                                         | 右京ふれあい会館                |
| 19 | 表装の会               | 西島 芳子                                                     | 72-0335            | 第2・4木曜 (13:00 ~ 16:30)                     | 北部会館多目的室2               |
| 20 | パッチワーク研究会          | 打田 照子                                                     | 71-2879            | 第2・4金曜 (13:00 ~ 16:00)                     | 北老春の家会議室1               |
| 21 | 押し花を楽しむ会           | 高橋かおり<br>鈴木佐知子                                            | 71-1690            | 第4水曜 (10:00 ~ 16:00)                       | 右京ふれあい会館                |
| 22 | ビーズアクセサリーの会        | 住吉 紀子                                                     | 71-1699            | 第1月曜 (13:00 ~ 17:00)                       | 右京ふれあい会館                |
| 23 | 折り紙を楽しむ会           | 山田 玲子                                                     | 72-2552            | 第2火曜 (10:00 ~ 12:00)                       | 右京ふれあい会館                |
| 24 | 地酒を味わう会            | 山内 梅乃                                                     | 71-1654            | 休会                                         | 右京ふれあい会館                |
| 25 | お茶を楽しむ会            | 山内 梅乃                                                     | 71-1654            | 休会                                         | 右京ふれあい会館                |
| 26 | トールペイントの会          | 西本 直江<br>西本万優美                                            | 71-0718            | 第2水曜 (13:00 ~)                             | 平城西公民館                  |
| 27 | フォークダンスの会          | 中川 啓子<br>宮崎 滋子                                            | 71-5093            | 第2・4金曜 (13:30 ~)                           | 右京ふれあい会館                |

## 編集後記

層富第一号の発行は一九八四年八月のことでした。

その年、本会創立に尽力された永田喜一郎事務局長が突然退任され、小生が第二代事務局を担当することになり、大橋一二編集長の下、層富に関わりました。

それから二四年、突然事務局長となって、編集部の一員になろうとは何とも不思議な巡り合わせです。

顧問の松岡禮一先生が「部員の皆さんで編集して、どう工夫しても解らない時だけ私に相談しなさい」とおっしゃられていましたので、一応出来た段階で御覧戴きました。貴重な御助言を戴きました。全て訂正するには、小生の力では不可能でした。今後勉強する所存ですので、今回はお許し下さいますようお願いを致しました。その時、先生が「校正は完璧に近い」とお褒めのお言葉をおっしゃって下さいました。

今回の層富第二五号編集では、上田善次会長はじめ玉置小代様、西村美佐子様、馬場恭子様が原稿整理・編集・原稿校正・などの確に下さった御陰です。

ただ、以前の様に原稿を印刷所にお渡しして、製版をしていただく方法ではなく、全てCD・ROMにして製版をお願いする方法を取りましたので、その間の時間が必要になり出版時期が遅くなってしまう。次回から効率よく出来ると思います。ご容赦下さい。

(文責 梶野)

〔編集〕

層富 編集部(顧問) 松岡 禮一

上田 善次

玉置 小代

西村美佐子

馬場 恭子

梶野 哲